週刊 YEAR BOOK

1922
大正11年

日録20世紀

6|2
平成10年6月2日発行
(毎週1回発行)第2巻第20号
¥560
講談社

ツタンカーメンの墓発見!

ワシントン軍縮会議と軍人"冬の時代"
5色刷りの"豪華版"も登場した児童雑誌ブーム
わずか2年で消えたシベリア「極東共和国」

▲「黄金のマスク」。ツタンカーメン王のミイラがかぶっていたもので、少年の王の面影を伝えていると言われる。

▼「黄金のマスク」をつけたミイラが納められていた「第3のミイラ型棺」。

▲生前、王が使ったと思われる「香油の容器」。カーターが玄室から持ち出した。

▲「上下エジプトの王冠をかぶる王の像」。葬祭の秘儀にかかわる7体の王像のうちの二つ。

▲「黄金の玉座」。背もたれの部分には、若い王と王妃の姿が、鮮やかに描写されている。

◎表紙　「第2のミイラ型棺」を調査するハワード・カーター。　アシュモリアン博物館・デジタルハウス

ハワード・カーターの忍耐力と想像力の勝利
三〇〇〇年間眠り続けた「黄金のマスク」
ツタンカーメンの墓、〝世紀の発見〟!

アシュモリアン博物館／デジタルハウス

▲発見されたツタンカーメン王のミイラを調査する。ミイラは身長167.6センチ。耳には耳飾り用の穴があった。

遺跡発掘家のハワード・カーターは「発掘に必要なのは忍耐力と想像力」だと言った。そして五年もの間の空振りにもめげず、一九二二年、存在自体が疑問視されていたツタンカーメンの墓をついに掘り当てたのだ。「黄金のマスク」と、二〇〇〇点にものぼる副葬品は、まさに〝世紀の発見〟の名にふさわしいものだった。

発掘六年目で到達した「黄金のマスク」の部屋

一九二二年一一月四日朝、エジプトのナイル川西岸の「王家の谷」で、岩に掘られた階段を発見した時、ハワード・カーター（四九）は、それが世紀の発見の始まりとは夢にも思っていなかった。

ツタンカーメン王の墓の発見という夢に挑戦し始めてから、六シーズンがすぎていた。だが、それまで、まったく成果があがらなかった。スポンサーのイギリスの富豪、カーナヴォン卿（五六）も、さすがに資金が底をつき、このシーズンで発掘の中断を決意していた。

「王家の谷」のファラオ（王）の墓は、

ハワード・カーターの忍耐力と想像力の勝利
3000年間眠り続けた「黄金のマスク」

ツタンカーメンの墓、〝世紀の発見〟！

▲発掘された前室の北壁側の様子。数点の手箱、寝台、それに二つの王像があった。奥の玄室へ通じる扉は封印されていた。 アシュモリアン博物館 デジタルハウス

当時すでに掘り尽くされた、というのが定説であった。そもそも、ツタンカーメン王（第一八王朝時代。紀元前一三五四年頃、九歳前後で即位。同一三四五年頃死去）自身が、実在したのかどうかもこの時点では不明だったのである。

カーターが発見した階段は、第二〇王朝のラムセス六世時代（紀元前一一四〇年頃）の作業員小屋の下にあり、二日がかりで掘り出すと、一二段下に厳重に封印された扉が見つかった。王家の封印が押され、高貴な人物の墳墓であることは明らかだった。

カーターは、すぐさまイギリスのカーナヴォン卿に「ついに谷でみごとな発見」と電報を打つ。駆けつけた卿とともに、発掘作業が再開された。扉の内部の石やガラクタの先に第二の扉が見つかった。ここにも、同じ封印が押されていた。

一一月二六日、カーターはこの瞬間を、「私が経験した最も素晴らしい日」と書いている。毒ガス検知のため蠟燭の炎をかざして内部をのぞいたカーターは、言葉もなく立ちつくした。扉の内部には「現実のものとは思えない」品々が並んでいたのである。三つの寝台がある部屋には、二つの等身大の王像があり、その周囲には、金張りの王座、金細工の小箱、多くのアラバスター（雪花石膏）製の壺、杯などがあった。

カーターは、外で待つカーナヴォン卿の「何か見えるのかね」という問いに「ええ、素晴らしいものが」と、答えるのがやっとのありさまだった。

墓には二度の盗掘の跡が残されていた。しかし、「無傷」と言ってよい状態であった。発見された品々にはツタンカーメンの名が刻まれており、三〇〇〇年の間、人知れず眠りについていた「幻の王」の実在が、ここに確認されたのである。

そしてさらに、彼らは、第二の扉の奥に、もうひとつの封印された扉を発見した。二つの扉の奥に、棺もミイラもなかったことから、第三の封印にそれが期待できたのである。

発掘調査は、目標を発見するのも大変だが、発見後の方が、やるべきことが格段にふえる。現場の記録を取り、調査すべき品とそうでないものを区分けし……という具合で、棺を安置する玄室を開く作業は翌二三年にずれこんだ。王のミイラを納めた四層の黄金の厨子の発見が二三年二月、そして一〇月からさらに二四年二月にかけ、厨子の解体作業が行われた。厨子の中には彫刻がほどこされた石棺、さらにその中に三層の象眼された棺があり、いちばん内側の棺は一トンを超える純金製だった。棺を開けると、打ち出した「黄金のマスク」で顔面をおおわれたミイラが出てきたのである。最終的にツタンカーメン王のミイラと確認されたのは、二六年五月。墓の内部での作業が終了したのは、一九二八年になってからのことだった。

小学校卒の人物が〝世紀の大発見〟を

ツタンカーメン王の墓の発見の持つ意味を、早稲田大学の吉村作治教授はこう指摘する。

「古代王朝の正史に名前も書かれていない王の、しかも無傷の墓を発見したのが第一の意味。そしてそれは、同様の墓が存在する可能性を示している。さらに手つかずの二〇〇〇点もの副葬品が発見されたのは、古今東西に例がない。これを金銭にすると、どのくらいになるのか見当もつきません。これに比べると、あのシュリーマンのトロイ遺跡の発見ですら、かすんでしまいます」

ほかのエジプトの王には詳細な記録があるにもかかわらず、ツタンカーメンに関しては、記録がない。その生涯の詳細は謎のままだ。ただ、わかっているのは、ツタンカーメンの二代前のアメンヘテプ四世が、伝統的な多神教を排除し、アテン教という一神教で統一する宗教改革を強行して、政治的な動乱期にあったことである。ツタンカーメンは、旧来の多神教に戻したとされるが、少年の王でもあり、リーダーシップを発揮したとは思えない。正史に記されなかったのは、こうした混乱のためと推測されている。

「幻」の王墓の発見者、カーターは、小学校卒という学歴しか持っていない。若い頃から記録画家としてエジプトの発掘に加わった、たたき上げの人物だった。厳然たる階級社会が支配する英国人としては、きわめて稀な存在であるとともに、考古学が象牙の塔の学問でなく実績の学問であることを示した人物でもある。

ツタンカーメンの墓の発見後、カーナヴォン卿はじめ、関係者が次々と死去し、ジャーナリズムは「ファラオの呪い」と名づけ、大々的に報じた。だが、今ではそれらは、センセーショナリズムを追ったマスコミのフライングとされている。カーター自身が、一九三九年まで元気でいた事実でも、それは裏づけられている。

エジプト発掘熱は、その後も浮沈を繰り返しながらも、現在なお続いている。しかし、ツタンカーメン発見に匹敵する成果はあがっていない。

▲1922年11月4日、カーターによって、岩に掘られた階段が発見された。階段とそれに続く通廊を掘り出す作業が懸命に続けられる。 CORBIS-BETTMANN PPS

▲12月27日、玄室に通じる前室北側の封印された扉を開けるカーターー（右）とカーナヴォン卿。 ユニフォト・プレス

▲イギリスの貴族、カーナヴォン卿（中央）は発掘調査を続けるカーターに、資金の援助を続けた。 ARCHIVE PHOTOS／アメリカンフォト・ライブラリー

ツタンカーメン王墓平面図

付属室　4.25m　2.7m
第四の扉　前室　第三の扉　約3.6m　約8m
玄室　約4m　約6.4m
第二の扉　宝庫　3.8m　4.8m
通廊　約13.5m
第一の扉
入口階段16段　約1.8m
N
仕切り壁
封印された扉

ハイテクを駆使して今も続く古代エジプトへの挑戦

18世紀末のナポレオンのエジプト遠征をきっかけとする古代エジプトブームは、20世紀に入り、ツタンカーメン墓の発見で空前の盛り上がりを見せた。

その後、第2次世界大戦によって発掘作業に水を差されるが、ふたたび活況を呈したのは、1960年に着工されたアスワン・ハイ・ダムの建設のためだった。水没から守るためのアブ・シンベル神殿移築は、その象徴だった。そしてその後は、それらに匹敵する目立った文化遺産の動きはない。しかし、太陽神ラーが乗ったと言い伝えられる「太陽の船」の発掘、復元などが今も行われている。

1995年には、アレキサンダー大王の墓発見というニュースが流れた。リビア国境に近いマケドニア風の遺跡が、規模や埋葬物などから、そう期待されたのである。だが、その後この報道は尻すぼみとなり、一時の興奮は冷めつつある。

発掘の世界では、最近、ハイテク技術が威力を発揮している。電磁波地中レーダー、先端にマイクロカメラをセットしたマジックハンドなど、次々と新兵器が登場している。中でも、非破壊調査は発掘に新たな時代を切り開いた。いまだに未確認のクレオパトラの墓をはじめ、エジプト遺跡にはまだ数多く眠っている「お宝」発見に威力を発揮しそうだ。

▲アスワン・ハイ・ダム建設のため、移築されるアブ・シンベル神殿。

「米英日の艦隊比五・五・三」で決着
ワシントン軍縮条約で軍人に〝冬の時代〟
日本海軍を襲った大リストラ！

ロシアが革命と内戦に、ドイツが敗戦にあえいでいた一九二二年、米国や中国では「好戦国民日本」の排日プロパガンダ網が広がりつつあった。〝恐露〟から〝恐日〟への転換の中で、日本の巨艦主義をいかに食い止め、封日体制を築くか――。米国のこうした思惑の産物として開催されたのが、ワシントン軍縮会議だった。

▲大陸会館で開催されたワシントン会議第1回総会。U字形テーブルの向こう側左方が、日本全権の席。 ユニフォト・プレス

五ヵ国が一〇年間もの〝建艦休止期〟を約束

一九二二年二月六日、ワシントンにある大陸会館の大広間には、午前中から世界のそうそうたる政治家が集まっていた。

米国のヒューズ国務長官（五九）に、英国のバルフォア枢密院議長（七三）、日本の加藤友三郎海軍大臣（六〇）や幣原喜重郎駐米大使（四九）など、出席者全員がモーニングにシルクハット姿。

「第四条、各締結国の主力艦合計総トン数は、米国五二万五〇〇〇トン、英国五二万五〇〇〇トン、（中略）日本三一万五〇〇〇トンを超ゆることを得ず」――午前一一時三〇分、米国、英国、日本にフランスとイタリアを加えた五ヵ国の全権が、中央にある卓上の条約文に署名していった。

調印されたのは、日米英仏伊による軍備制限条約で、日本は米英仏と太平洋での利権を尊重しあう四ヵ国条約や、中国の門戸開放と機会均等を約束する九ヵ国条約なども批准した。

まさに、この日をもって、三ヵ月間にわたり列強が軍縮問題などを話し合ってきた会議に終止符が打たれたわけだが、実を言えば前年一一月一二日から始まった第一回総会に、会議の結果を事実上方向づける、重要な〝ヤマ場〟があった。

「米国は建造中の巨艦一五隻中六一万トンを率先廃棄せんとす」――議長就任の挨拶に立ったヒューズ国務長官が突然、自国の軍縮案をぶちまけ、各国の全権や記者に支持を訴えたのである。続いて彼が、米英日の海軍艦隊比を五・五・三にしようと提唱するや、場内は耳をつんざくような歓声と拍手でいっぱいになった。

日本全権の加藤海相はこの米国案に対して、第二回総会の席上、「日本は提案を主義において受諾し、海軍軍縮の大々的削減に着手するの用意あり」と返答。各国全権から大きな拍手で迎えられた。

こうして、ヒューズによる慣例破りの〝外交爆弾〟の成功によって、米国は終始、会議を有利に進めていくことになる。

軍縮条約を要約すれば、次のようになる。各国合わせて六五隻一八〇万トンの戦艦を廃棄し、「主力艦と航空母艦の各国比率を、米五・英五・日三（仏伊は各一・七）にする」米国案を実現。日本は条件を呑む代わりに太平洋の基地を現状維持できることとし、さらに、向こう一〇年

「ワシントン条約の影響を受けた日本の戦艦・旧型戦艦」

名称	排水量(トン)	1922年1月の状況	条約後の艦歴
富士	12533	一等海防艦／艦齢24年	兵装を撤去、特務艦に編入
敷島	14850	一等海防艦／艦齢21年	兵装を撤去、特務艦に編入
朝日	15200	一等海防艦／艦齢21年	兵装を撤去、特務艦に編入
三笠	15140	一等海防艦／艦齢19年	廃棄。記念艦として保存
周防	12970	一等海防艦／艦齢19年	廃棄。解体
肥前	12700	一等海防艦／艦齢19年	廃棄。射撃訓練の標的として撃沈
石見	13516	一等海防艦／艦齢17年	廃棄。爆撃実験標的として撃沈
香取	15950	戦艦／艦齢15年	廃棄。解体
鹿島	16400	戦艦／艦齢15年	廃棄。解体
生駒	13750	巡洋戦艦／艦齢13年	廃棄。解体
鞍馬	14636	巡洋戦艦／艦齢10年	廃棄。解体
伊吹	14636	巡洋戦艦／艦齢12年	廃棄。解体
薩摩	19372	戦艦／艦齢11年	廃棄。実験標的として撃沈
安芸	19800	戦艦／艦齢10年	廃棄。実験標的として撃沈
摂津	20800	戦艦／艦齢9年	廃棄。訓練用標的艦として昭和20年まで使用
金剛	26330	巡洋戦艦／艦齢8年	戦艦として第2次大戦に参加
比叡	26330	練習戦艦／艦齢7年	戦艦として第2次大戦に参加
榛名	26330	巡洋戦艦／艦齢6年	戦艦として第2次大戦に参加
霧島	26330	巡洋戦艦／艦齢6年	戦艦として第2次大戦に参加
扶桑	29330	戦艦／艦齢6年	戦艦として第2次大戦に参加
山城	29330	戦艦／艦齢5年	戦艦として第2次大戦に参加
伊勢	29990	戦艦／艦齢5年	戦艦として第2次大戦に参加
日向	29990	戦艦／艦齢3年	戦艦として第2次大戦に参加
長門	32720	戦艦／艦齢2年	戦艦として第2次大戦に参加
陸奥	32720	戦艦／前年竣工	戦艦として第2次大戦に参加
加賀	39990	建造中	工事中止のところ、関東大震災で破損した「天城」の代艦として航空母艦に改造
土佐	39990	建造中	工事中止。実験用標的艦として利用後、海没処分
天城	41200	建造中	航空母艦へ改造中、関東大震災により破損、解体
赤城	41200	建造中	航空母艦として工事続行、第2次大戦に参加
高雄	41200	建造中	工事中止、船台上で解体
愛宕	41200	建造中	工事中止、船台上で解体

▲　　はワシントン条約の影響を受けた軍艦
資料：福井静夫著『日本海軍全艦艇史（資料編）』
注：戦艦として建造され、1922年1月現在、軍艦として在籍したもののみ示した。

▶首席全権・加藤友三郎海相。ほかに徳川家達貴族院議長、幣原喜重郎駐米大使が全権をつとめた。

▶全権団は、「対米英六割という主力艦保有比率は屈辱的弱腰だ」とする国民の抗議に迎えられた。 毎日新聞社

間は各国の〝建艦休止期〟とする。

予算も四六〇〇万円削減 海軍の大リストラを断行

ワシントン会議が開催される原因になったのは、列強国の建艦競争である。一九〇六年に英国が竣工した画期的な戦艦「ドレッドノート」（一万七九〇〇トン）に刺激され、日本も六年後に初の弩級戦艦「河内」（二万八二三トン）を完成。さらに英国が超弩級の「オライオン」（二万二〇〇〇トン）を竣工すれば、米国が大建艦計画で対抗と、〝三大海軍国〟の日米英は熾烈な建艦競争を展開してきた。

列強が多額の建造費に頭を抱える中、一九二〇年に戦艦八隻と巡洋艦八隻の「八八艦隊」の建艦計画を決定した日本でも、軍事費が財政を圧迫。翌年の歳出に占める軍事費は、四八％にまでなっていた。

一方で欧米列強国の第一次大戦参戦の隙をついて中国進出を進める日本に待ったをかけ、同時に建艦費の重荷を減らそうと、一九二一年七月、日英仏伊に軍縮会議の開催を打診したのが米国だった。

「時事新報」特派員だった後藤武男は、ワシントン会議に出席した日本政府のねらいを、「海軍力を米英に対抗しうる比率（米英の七割）にする、日英同盟は存続させる、山東省問題はパリ会議の主張を堅持（山東省利権を保持）する、の三点に尽きる」と回想録に記している。ところが、戦艦比率ではヒューズによる〝外交爆弾〟で出鼻をくじかれ、ほかの二点についても米国の外交手腕の前に、事実上譲歩することになる。

日本代表団の足並みの乱れもあった。

加藤海相が米国案を受諾した一方、後に艦隊派（条約不満派）の中心となる加藤寛治中将は会議脱退を主張。日本の艦隊七割案が退けられると、「（米国に）報復してやる」と悔し涙を見せたという。

「海軍の予算維持の困難さや、太平洋上における列強の軍備均衡の状況から、加藤海相は米国案を呑んでも日本に不利に働かないと見通していました。彼は、海軍内で最も進んだ戦略理論家だったわけですが、残念ながら、加藤寛治中将をはじめとする当時の海軍首脳は、こうした考えを理解できなかったのです」

と解説するのは、日本軍事史研究家の大江志乃夫茨城大学名誉教授である。

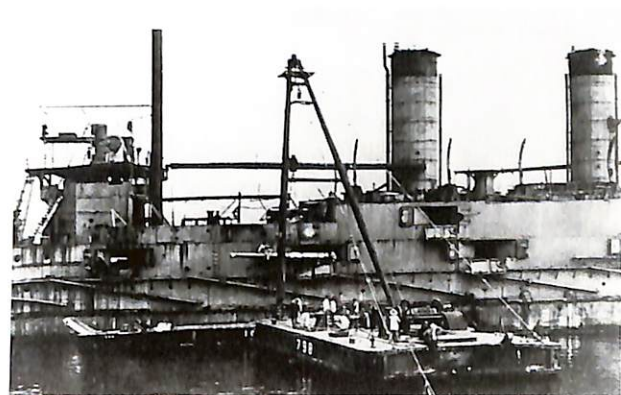
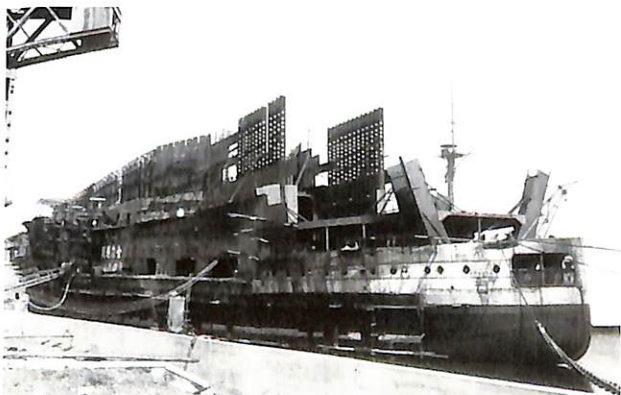
会議後、日本は明治末に竣工した主力戦艦「摂津」など五隻、巡洋戦艦「伊吹」など三隻、旧式戦艦「三笠」など七隻を次々と廃棄。建造中もしくは計画していた一四隻の建艦も中止した。さらには准士官以上一七〇〇人、下士官・兵五八〇〇人、職工一万四〇〇〇人の大リストラを断行。海軍コストを大正一二年度予算で約四六〇〇万円削減し、陸軍にも軍縮の波を広げていったのである。

世論は軍縮を歓迎したが、軍人にすれば〝受難の時代〟であり〝冬の時代〟が到来した。巷では軍人軽視の風潮さえ現れ、道端で「馬鹿野郎、邪魔だ」と、軍人を怒鳴りつける電車の車掌までいた。

そこで、ワシントン軍縮条約に大きな役割をはたした米国への不満を鬱積させる軍人は、〝復活〟の機会をうかがいながら「対米必戦論」に傾いていった。

八年後の一九三〇年一月、ワシントン会議で未決定だった補助艦の比率を決めるロンドン軍縮会議が開催されるが、かつて涙を呑んだ加藤寛治大将らは軍縮条約阻止に動き、海軍を二分する内部抗争に発展。調印こそされるものの、今度は軍縮賛成派の軍人がことごとく追放される事態におちいっていくのである。

▲廃棄と決まった戦艦「土佐」は、実験用標的として利用の後、海没処分された。工事なかばで引き出される同艦。 呉市企画部海事博物館推進室提供

毎日新聞社

▲舞鶴軍港で、大砲などの兵装を撤去される戦艦「鹿島」。後に三菱長崎造船所に運ばれ、解体された。

▲横須賀工廠で空母に改造中の「加賀」。戦艦として完成すれば、41センチ砲10門、「陸奥」「長門」以上の巨艦となるはずだった。

女たちの肖像

本邦ヌード広告第一号！検閲すれすれのポーズに女優・松島栄美子が挑戦

稲葉真弓

日本の広告に女性のヌードが登場したのは明治の末期。おもに月経帯や香水の宣伝に使われたが、いずれも絵や図像だった。ところがこの年、本物の女性を起用したセミヌード写真の「赤玉ポートワイン」のポスターが登場した。ヌードと言っても胸から首筋を見せる程度のものだが、肌を出しただけで警察から目をつけられる時代、人々のど肝を抜くには充分だった。

広告主は寿屋（現・サントリー）、モデルは松島栄美子だった。日本の写真版美人ヌード広告第一号として語り継がれているこのポスターは、当時は検閲すれすれ。松島栄美子はそんな〝危ない広告〟に挑んだのだった。

大正一〇年の春、二七歳だった彼女は、浅草オペラの女優。大阪で「赤玉ポートワイン」の宣伝興行に出ていた。そこへ寿屋の宣伝部長・片岡敏郎が現れ、「一生に一度のお願いや」と、ヌードモデルを頼みこんだ。彼女がOKしたのは、「胸の開いた舞台衣装に慣れていたから」だという。

撮影は極秘で行われた。寿屋の工場の隣の写真館を「本日休業」の札をかけて借り切り、ここで四、五日缶詰になった。撮る方も撮られる方も初の試みとあって、栄美子はあらゆるポーズをさせられ、できあがったのが件のポスターである。

ただし、ポスターは世に出るまでに約一年かかった。彼女の白い肌にグラスの中の赤ワインの色が合わず、当時の社長だった鳥井信治郎が、色の研究をさせるために担当者を半年間もアメリカに派遣したからだった。その結果、ワインの部分に鮮明な赤を着色してポスターは完成。これが大評判となり、ドイツで開かれたポスター展で一等に入選した。栄美子にはファンレターが殺到、同時に警察もやって来て親戚からは出入り禁止になったと、彼女は後のインタビューで語っている。同年、彼女は、寿屋がPRのため組織した赤玉楽劇団（オペラ団）のプリマドンナとして全国各地を巡業したが、興行資金が続かず一年で解散した。

サントリー提供

▲これが話題のポスター。

松島栄美子の功績は当時はタブーだったヌードを「別に何とも思わず」受け入れ、広告界に新しい地平を開いた点だった。

その後の彼女の足跡は明らかではないが、老後は本名の飛鳥清に戻り、東京都内の長男の家に同居。昭和五一年二月二七日号の「週刊朝日」では、元気に当時の思い出を語る八二歳の姿が報じられた。

勝者・敗者

神戸商・浜崎投手を粉砕！和歌山中学、史上初の快挙 夏の中等野球で二連覇達成

阿部珠樹

和歌山中学は、第一回の夏の中等学校野球大会から、この年の第八回大会まで連続出場をはたしている中等野球の名門だった。しかし、毎回期待されながら、優勝したのは案外遅く、前年、大正一〇年の第七回大会が初めてだった。初優勝した時の和歌山中学は、徹底した打撃のチームだった。四試合であげた得点が七五点。決勝でも一六点をあげて京都一商を下した。

そのイメージが強烈で、この年、大正一一年のチームも打撃中心のチームと思われていたが、実態は少し違っていた。打撃のパワーは劣るものの、安定した投手力と堅実な守りでチャンスを確実にものにする、クレバーなチームに変身していたのである。

その中心は、五年連続鳴尾球場のマウンドを踏んだ〝大エース〟北島の陰に隠れていた井口新次郎（一八）だった。北島の卒業後、エースになった井口は、この年の本大会が始まると絶好調で、一回戦の早実戦では毎回三振を奪い完封、二回戦、準決勝も相手打線を一点におさえて完投、史上初の連覇に王手をかけた。

その和歌山に立ちはだかったのが小兵の左腕、浜崎真二（二〇）を擁する神戸商業だった。浜崎は身長一六〇センチにも満たない小柄な投手だったが、準決勝では一三個の三振を奪うなど、歯切れのいい投球は、観客を大いに沸かせた。

八月一八日午後一時からの決勝戦は、地元勢同士の戦いとあって、朝九時には満員になる盛況ぶり。先手を取ったのは神戸商だった。初回、連投でやや肩が重そうな井口に、浜崎らが集中打をあびせ二点を奪う。和歌山は浜崎から二点を取ったものの、七回までに一三もの三振を喫し、追加点も奪われて劣勢、史上初めて実業学校が優勝旗を奪うかと見えた。

しかし八回、和歌山が反撃に転じる。二塁打を口火にヒットと相手の守備の乱れを突き、一挙五点をあげて逆転、九回にも三点をあげてダメを押す。小さな大投手、浜崎はついに力尽きた。

優勝旗を持って入場行進したチームが、再びそれを持ち帰る史上初の快挙に、満員の観衆はおしみない拍手を送った

▲この年、夏の中等学校野球大会で2連覇達成の和歌山中学チーム。

「歴史写真」

▼丸ノ内の東京中央郵便局が全焼（1月4日）夜7時頃、木造平屋建ての小包郵便物発送室軒下から出火。折からの激しい北西の風にあおられて、2階建ての局舎を全焼した。原因は漏電とみられ、10人が負傷した。

▲大阪消防隊に防煙マスク登場（1月6日）煙が充満しやすい倉庫などの火災に対応するため。北区の造幣局前の川端で恒例の出初め式が行われたが、放水競技の玉落とし、救護演習などと並んで、一般にお目見えした。

「歴史写真」

「イリュストラシオン」

▼大隈重信、国民葬（1月17日）10日死去。83歳。長い葬列が東京・早稲田の自邸から日比谷の斎場へ続いた。磊落な性格で「民衆政治家」と呼ばれただけに、沿道は死をいたむ人々で大混雑となった。

▲仏首相にポアンカレ（1月15日）国民の期待にこたえ、ドイツにベルサイユ条約履行を迫った。翌年には、賠償支払いの遅延を理由にドイツのルール地方に侵攻。前列左から4番目がポアンカレ。

「写真通信」

▲香港で船員スト（1月12日）主として英船で働く中国人が賃上げを要求し、この日から乗船拒否に入った。市民の反英感情や広東政府の資金援助もあり、3月8日、船主側が妥協して終結。写真は勝利を祝う市民。

▶大相撲、5場所ぶり西方が優勝（1月22日）東京・両国、回向院境内の国技館で行われていた春場所、勝ち星21点差で東方をしのいだ。写真は、優勝旗授与式で満場の拍手をあびた西方力士。旗手は幕内の陸奥ノ山。

「写真通信」

大正11年1月

1（日）●山川均らが社会主義的時事評論誌「前衛」創刊。

2（月）●クリミア共和国、ソビエト政府の同意を得て独立を宣言。

3（火）●浜松市の遊廓で縄張り争いから二〇〇人乱闘。

4（水）●東京中央郵便局が全焼。

5（木）●富山県の第六九連隊で、満期除隊兵一二人が上官への反感から騒動。

6（金）●農商務省、常盤海上火災の設立を認可（この頃、損保会社設立がブームに）。

7（土）●前年度は三億六〇〇〇万円の入超と大蔵省。

8（日）●リトアニアのビルナ地方、住民投票でポーランド帰属を決定（両国、戦争状態に）。

9（月）●東京市の贈答品量目調査、酒や砂糖で一割近くが不正、と新聞に。

10（火）●大隈重信死去（17日、日比谷公園で国民葬）。

11（水）●国鉄は、一両に一人乗務させている「列車ボーイ」を、寝台車をのぞき廃止する計画と新聞に。

12（木）●香港で反英中国人船員が賃上げ要求スト。

13（金）●連合国賠償委員会、独の支払猶予を暫定承認。

14（土）●美術院と二科会の脱会組が「春陽会」を結成。

15（日）●仏に対独強硬派のポアンカレ内閣成立。

16（月）●女性の短髪が流行、と新聞に。

17（火）●米の前年度貿易は二〇億ドルの出超、と新聞に。

18（水）●ワシントン会議、中国の門戸開放を決議。

19（木）●社会運動家・堺利彦宅に短刀を持った暴漢。

20（金）●皇太子仏訪問の答礼に、ジョッフル元帥来日。●立憲国民党の犬養毅総理、師団半減を提唱。

21（土）●コミンテルン主催のモスクワ極東民族大会に片山潜・徳田球一・高瀬清らが出席。

22（日）●東京・赤坂で普選断行・綱紀粛正民衆大会開催。

23（月）●ワシントン会議極東総委員会で幣原全権が、シベリアから早急に撤兵する方針を確認。

24（火）●陸軍各務原航空隊で、橇つき飛行機初飛行。

25（水）●豪雪のため信越地方で列車埋没・立ち往生続出、乗客に危機迫り鉄道相は軍隊出動を要請。

26（木）●寒波いすわり、東京では水源池凍結・水道管破裂などにより水不足深刻、と新聞に。

27（金）●東京で行われた官業労働者演説会で、警官の「注意」を「中止」と聞き間違え、紛糾。

28（土）●小学生の作文は教師の押しつけが多く、子どもらしさがないと早稲田実業講師が発表。

29（日）●移民促進のため、長野県に信濃海外協会設立。

30（月）●横浜・真金町の遊廓街で大火、七〇戸焼く。

31（火）●東京外国為替仲買業組合、成立。

ニュース・ファイル 1922

フォト＋日録で再現する365日

〝在野の巨頭〟大隈重信と〝閥将軍〟山県有朋という対照的な重臣が亡くなり、文豪・森鷗外が去った。新しい時代の足音がひたひたと聞こえ始めた。東京・上野の平和博の呼び物は文化住宅。産児制限が騒がれ、「相対性理論」が話題を集めた。

◀早慶戦やっと再開（11月23日）対抗野球試合での不祥事から、16年間試合を中断していた両校が、ラグビーで対戦。厳戒の中、三田グラウンドで行われ、14対0で慶大が快勝。以降の早慶戦繁栄の先駆けとなった。
毎日新聞社

「写真通信」

▶北陸線で大雪崩が列車を直撃(2月3日)午後8時頃、除雪作業員200人を乗せて走行中、親不知・勝山トンネル入り口で災難に。下敷きになった列車がつぶれ73人が圧死、海へ流された行方不明者も17人を数えた。

「歴史写真」

◀平和記念東京博覧会開く(3月10日)第1次大戦後の平和を祝って、上野公園で7月31日まで実施。若手建築家が新様式の展示館を設計、盛り上げたが、文化住宅や水上飛行機など一部をのぞき不評・不人気だった。

▶治安警察法改正案、成立(3月25日)新婦人協会などから請願書が提出されていた第5条の改正が、やっと実現。これで女性の政治活動は認められたが、政治結社加入禁止は変わらなかった。写真は前年、国会に詰めかけた婦人運動家たち。

毎日新聞社

▶予算国会、大乱闘(2月14日)大正11年度の予算を決める衆議院で、与野党が対立。政府の放漫政策を批判し投票をはばもうとした野党・憲政会の中野寅吉は、殴られて気絶した。写真は、医務室で治療を受ける中野。

「歴史写真」

「歴史写真」

▲英国皇女、華やかに結婚(2月28日)ジョージ5世の長女メリー(24)が、ラッセルス子爵(40)とロンドンのウェストミンスター寺院で挙式。式場にいたる道は、群衆で大にぎわいとなった。

▶元老・山県有朋、国葬(2月9日)1日死去、83歳。日比谷の斎場に向け、葬列が粛々と進んだ。陸軍、政・官界、宮中に巨大な派閥を作り権力の中枢に君臨。

「歴史写真」

大正11年2月

1(水)●元老・山県有朋が死去(9日、国葬)。
2(木)●ジョイスの『ユリシーズ』、パリで刊行。
3(金)●北陸本線・親不知付近の勝山トンネルで雪崩。客車三両が埋没・大破し、死者七三人。
4(土)●日中両国が「山東還付条約」に調印。
●前年の米の実収高は九年度比一二%、八〇〇万石減少と判明。
5(日)●全国一斉に普選要求大会が開催され、盛況。
6(月)●ワシントン会議終了。海軍軍備制限条約・中国に関する九カ国条約などに調印。
●朝鮮と台湾に、日本人との共学を原則とし日本の学校令に準拠させる「改正教育令」を公布。
7(火)●政友会と国民党、陸軍縮小案を衆議院に提出。
●三菱造船長崎造船所、戦艦「土佐」などの建造中止にともない、職工三七三一人を解雇。
8(水)●ソビエト政府が国家政治保安部(GPU)設立。
●枢密院議長に清浦奎吾を任命。
9(木)●香港の中国人船員ストが広東にまで拡大。
10(金)●朝鮮総督府が八五条におよぶ小学校規定発布。
11(土)●長野県下諏訪で、日本初のフィギュアスケート公式大会を開催。
12(日)●海軍は条約により廃艦とする一二隻の処理方法を正式決定。「三笠」は記念艦として保存。
13(月)●吉野作造が「東京朝日新聞」の連載「所謂、帷幄上奏について」で軍部を攻撃。
14(火)●桜庭留三郎が樺太(サハリン)―長野間をスキーで踏破。
15(水)●ハーグ常設国際司法裁判所が発足。
16(木)●関東・東北に暴風雨、死者多数。
17(金)●東京で「普選促進全国新聞記者大会」開催。
18(土)●東大付属病院で火災、患者避難で大混乱。
19(日)●僧侶が選挙権を要求して全国大会。
20(月)●国勢院、日本の総財産を八六〇億円と発表。
21(火)●政府、過激社会運動取締法案を貴族院に提出。
22(水)●亡命ロシア人が羅紗売りで生計、と新聞に。
23(木)●野党、衆議院に統一普選案上程(27日、否決)。
24(金)●軍縮による失業問題で紛争中の横浜船渠会社の工員がサボタージュを決行。
25(土)●朝日新聞が「旬刊朝日」(定価一〇銭)創刊。
26(日)●五世中村福助らが結成した新舞踊の会「羽衣会」、第一回公演開催。
27(月)●孫文が桂林で北伐を宣言。
28(火)●イギリスがエジプトの保護・統治を放棄、エジプトは独立を宣言。

◀▼軍縮条約下の海軍(3月)軍縮の嵐の中、海軍は航空機の実戦化や「親しまれる海軍」作りに励んだ。写真左は戦艦「山城」での発艦実験。この頃の飛行機は、カタパルトなしで飛び立つことができた。下は最新型戦艦「陸奥」の公開風景。

呉市企画部海事博物館推進室提供

◀米産児制限運動家のサンガー夫人、来日(3月10日)公開講演禁止となり、医師会など特定の聴衆に持論を語った。写真は東京で婦人運動家で女医の吉岡弥生(中央)と会談したサンガー夫人。

「写真通信」

▼大阪の石井定七商店が破産(3月1日)米の売買で巨富を築いた「相場界の怪物」が、投機に失敗。金融界に大きく影響し、各地で取り付け騒ぎが発生した。写真は東京貯蔵銀行に押しかけた預金者。

毎日新聞社

「歴史写真」

▲二重橋で男が自爆(3月17日)宮城正門に突進するのを、近衛兵が突き飛ばしたところ爆死。元満鉄工員(38)で「社会の革新を欲す」と記した上奏文を持っていた。写真は遺体を運ぶ警官たち。

部落解放同盟中央本部編『写真記録全国水平社七十年史』

▶別府・的ケ浜事件起こる(3月25日)犯罪予防上有害と、警察が被差別民の集落を焼き払う暴挙。写真は呆然とする被災者たち。僧・篠崎蓮乗の救済で急場をしのいだ。警察の責任は問われなかった。

大正11年3月

1(水)●石井定七商店破綻のため大阪の米市場が休止。
2(木)●鉄道省が急行列車の新設・増発計画と新聞に。
3(金)●被差別部落解放めざし、「全国水平社」創立。
4(土)●政府の海員職業紹介に日本海員組合が反発。
5(日)●東京で綱紀粛正国民大会開催。
6(月)●ロシアがスウェーデンと通商条約締結。
7(火)●英国人弁護士のジョン・ガスピーと声楽家・原信子が結婚。
8(水)●衆議院、新刑事訴訟法案を可決(翌年施行)。
9(木)●和歌山市議が払い下げ外米を不正売買。
10(金)●上野で平和記念東京博覧会開催(~7月31日)。
●産児制限論者のサンガー夫人、来日。
11(土)●日本庭球協会創立。東京・大阪に支部結成。
12(日)●各務原から代々木まで、初めて旅客を空輸。
●グルジア・アルメニア・アゼルバイジャンがザカフカス社会主義ソビエト共和国を形成。
13(月)●横浜船渠争議団が休戦宣言、無条件就業へ。
14(火)●米下院予算委員会、陸海軍の大幅軍縮を提案。
15(水)●大阪毎日新聞、西日本初の高速輪転機導入。
16(木)●東京日日新聞、漢字の制限と簡略化を実施。
17(金)●元満鉄工員・藤田留次郎、政府弾劾の上奏文を所持して、宮城の正門前で爆弾自殺。
18(土)●東京で小学生一〇人を賭博容疑で検挙。
19(日)●イタリアのミラノで、最初のファシストデモ。
20(月)●各地で烈風、広島高女の新築校舎が倒壊。
21(火)●大阪・名古屋・八幡などで、軍縮にともなう失業救済を要求し官業労働者が大規模なデモ。
22(水)●六大都市行政監督法公布(現在の政令指定都市制度の先駆)。
23(木)●狩野川改修要求し流域住民が静岡県庁へ陳情。
24(金)●独、インフレで一ドルが三二九マルクに。
25(土)●別府警察署、犯罪予防口実に被差別部落焼く。
26(日)●田中義一陸軍大将、旅行中に上海で二人の朝鮮人に狙撃されるが無事。
27(月)●横須賀市で上水道完工(31日、鹿児島市でも)。
28(火)●大隈重信邸の早稲田大学への寄付が決まる。
29(水)●軍用鳩による初の夜間長距離通信に成功。
30(木)●文部省、岡山・新潟両市の医専の官立医科大学昇格を認可。
●次年度予算公布。歳出一億円減の緊縮予算。
31(金)●アメリカの二〇州で、炭鉱労働者六〇万人が空前のスト。
●南洋庁官制公布。南洋委任統治地域が軍政から民政へ移行。

▲エドワード英皇太子来日（4月12日）戦艦「レナウン」で横浜上陸、東京駅から宮城までの沿道に十数万の市民の列ができ、日英親善ムードが高まった。写真は皇太子（左）を東京駅に迎えた摂政宮裕仁親王（右）。

横堀洋一提供

PPS

▲初代書記長にスターリン（4月3日）ロシア共産党大会で、人事などを握る書記局の長におさまった。スターリン（左）への権力集中の序幕だった。写真中央はレーニン、その右はカレーニン。

▶大阪朝日新聞社、「週刊朝日」発刊（4月2日）旬刊雑誌を、第5号のこの日付から週刊に。タブロイド判36ページ。同日創刊された「サンデー毎日」とともに、2大週刊誌時代を作った。

▼天保山桟橋落成（4月7日）大阪の安治川河口の天保山の北に建設され、対岸の桜島と結ぶ渡し船、別府や高松航路の客船の発着所として大いににぎわい、大阪港発展の原動力となった。写真は落成式の模様。

「写真通信」

▶三浦環、8年ぶりの日本（4月30日）大正3年に渡欧、蝶々夫人を歌い大成功をおさめた日本初の国際的オペラ歌手の、凱旋帰国だった。38歳。翌月、横浜で帰国初演奏会を開き、若い女性ファンの感動を誘った。

「歴史写真」

▼関東一帯に激震（4月26日）M6.8。午前10時頃から約8分間、大揺れ。横浜は特にひどく、37戸が倒壊、水道管破裂で南京町は水浸しとなった。写真は、山下町付近の砕けた家屋。

「歴史写真」

大正11年4月

1（土）●樺太に町村制施行。

2（日）●「週刊朝日」「サンデー毎日」創刊。

3（月）●ロシア共産党第一一回大会、スターリンを中央委員会書記長に選任。

4（火）●シベリア派遣日本軍、駐留区域に接近した極東共和国軍と交戦。

5（水）●茨城県の霞ケ浦海軍航空隊で、日本初の落下傘降下実験。

6（木）●平和博では火災・盗難・事故が頻発と新聞に。

7（金）●ロンドン―パリ間で、世界初の航空機同士の空中衝突事故が発生。

8（土）●国語調査会、常用漢字案二〇〇〇字を選定。

9（日）●神戸市で賀川豊彦らが日本農民組合を創立。

10（月）●ソビエト政府承認と為替安定問題を討議する国際会議、「ジェノバ経済会議」が始まる。

11（火）●地方線建設を重点とする鉄道敷設法、公布。

12（水）●イギリス皇太子、来日（5月9日離日）。
●大阪毎日新聞、「英文大阪毎日」を創刊。

13（木）●岩手県渋民村で石川啄木の記念碑除幕式。

14（金）●静岡市で「少年団日本連盟」結成大会。

15（土）●パリの国民美術協会サロンで日本美術展開催。
●官立大阪外国語学校設置、入学式挙行。
●極東共和国との「大連会議」が決裂。

16（日）●帝国ホテル旧館が全焼。
●独ソ両国、「ラパロ友好条約」締結を発表、ベルサイユ体制に反旗。

17（月）●初の私立高校、武蔵高等学校が開校。
●少年法・矯正院法、公布。

18（火）●関東で突風と雷雨、漁船の遭難相次ぐ。

19（水）●東京で初の見本市、文房具商四七店が参加。

20（木）●女性の政治集会参加を認めた「改正治安警察法」、公布。

21（金）●奈良・東大寺の勧学院から出火、全焼。

22（土）●健康保険法、公布（15年7月1日施行）。

23（日）●台湾初の高等教育機関、台北高等学校が開校。

24（月）●帝国水産会、創立。

25（火）●世界的バイオリニスト、ジンバリストが来日。

26（水）●張作霖と呉佩孚の第一次奉直戦争始まる。
●関東一帯に地震、完成近い丸ビルにも亀裂。

27（木）●大阪相撲の宮城山、横綱免許。

28（金）●浅野造船所が鶴見工場を一時閉鎖、一八〇〇人に解雇通告。

29（土）●愛知県警、名古屋初のメーデーに禁止命令。

30（日）●四九両の貨客混合列車が栃木県矢板駅で転覆。

証言・あの日この日

長岡半太郎（57）

11月17日（金）〈北野丸に乗移らんとするけれども、二隻のランチが既に横着けになつて居て容易に取縋ることができぬ、遠くの甲板上に温顔の教授が此方を見詰めて帽を振つている。予は手紙を取り換したことはあるが一面識もないから、教授は予を知つてゐる筈はない〉（長岡半太郎「アインシュタイン博士との初対面」）

この日、日本郵船の欧州航路定期貨客船「北野丸」が、マルセイユ出航から40日間の航海を終えて、ようやく神戸港に着いた。船上の甲板では、ノーベル賞受賞が決定したばかりの物理学者、アインシュタイン博士が風に吹かれながらさかんに手を振っている。この日、神戸港で大勢の日本人が博士を出迎えたが、その中に日本物理学界の大御所・長岡半太郎もいた。長岡は、博士への帝国学士院の招待状を持参していた。（山崎行太郎）

「写真通信」

▲「バイオリンの名手」ジンバリスト来日（4月25日）5月1日から帝国劇場でパガニーニなどを熱演、日本ににわかに「提琴」ブームを巻き起こした。33歳のロシア生まれの米国人。写真は22日の送別会で。左から二人目。

「写真通信」

▶澄宮殿下、潮干狩り（5月11日）学習院初等科1年の大正天皇第4皇子（後の三笠宮崇仁親王）が、学友120人と千葉・稲毛海岸に春の修学旅行。自身で網いっぱいアサリを取って大喜びだった。

▼軍法会議公開（5月31日）法改正により傍聴許可、民間弁護士の弁護が可能になった。写真は東京・青山の第1師団司令部内での公判。窃盗・暴行などの容疑者が、次々被告席に立った。

「歴史写真」

「写真通信」

▲逓信博物館、移転（5月15日）逓信省構内から牛込見附の独立官舎に。開館を記念し、2週間にわたって交通資料展覧会を催し、逓信事業の歴史などを展示した。写真は珍しい欧米各国のポストに見入る小学生。

▼エベレスト8320メートル地点を征服（5月）英王立地理学協会とアルパイン・クラブ代表で組織するヒマラヤ委員会が、第2次隊を北面ルートに派遣。頂上8848メートルは、まだ遠かった。

「イリュストラシオン」

大正11年5月

1（月）●中国共産党、第一回全国労働大会を開催。

2（火）●高橋首相の内閣改造案に文相と鉄道相が反対（6日、断念）。

3（水）●京都の三高で校長排斥・校風宣揚の生徒大会。

4（木）●本多光太郎、英鉄鋼協会のベッセマー賞受賞。

5（金）●日本軍、山東鉄道沿線からの撤兵を完了。

6（土）●今年に入り、織物・雑貨中心に恐慌、価格が二～四割の急落、と新聞に。

7（日）●東京の銀座・日比谷で、通行人から金をまきあげる不良グループ六〇人を一斉検挙。

8（月）●団琢磨団長の英米訪問実業団が帰国。

9（火）●シカゴで要人暗殺計画発覚。警察は背後に労働運動指導者がいるとして一五〇人以上逮捕。

10（水）●海軍航空隊は軍縮の影響受けず増強と新聞に。

11（木）●大阪毎日新聞、「点字毎日」創刊。

12（金）●張作霖、東三省の独立を宣言。
●アメリカ・バージニア州ブラックストーン付近に重さ二〇トンの隕石が落下。

13（土）●軍縮にともなう艦隊補充計画省議決定。大正一二年度から五年間の総額五億六〇〇〇万円。

14（日）●東京で四人が狂犬にかまれる。

15（月）●新婦人協会が東京で治安警察法改正を祝う演説会を開催（初の婦人政談演説会）。

16（火）●明治三九年着工の第一期神戸港修築工事完成。

17（水）●農商務省、名古屋綿糸市場の設立を認可。

18（木）●宮城前広場で野球や相撲をした官吏を勾引。

19（金）●内務省に都市計画局を新設。

20（土）●マルクス、エンゲルス著、堺利彦訳の「共産党宣言」秘密裏に出版。

21（日）●東京で開催中の平和博の福引きで、評判の自動車の的中者が出る。

22（月）●伊、リビアのアラブ人に対する攻撃を開始。

23（火）●東京市のゴミは一日に二〇万貫、と新聞に。

24（水）●ドイツに対する国際借款供与を検討するモルガン委員会をパリに設立。

25（木）●南洋庁本庁はパラオに設置、と新聞に。

26（金）●千葉港が重要港湾に指定される。

27（土）●マラソンの吉岡信行が長崎―東京間を走破。

28（日）●米鉄道労働委員会が一三％の賃金カットを通告（労働側拒否、7月からストに入る）。

29（月）●東京高速鉄道創立発起人に、新宿―小田原間の鉄道敷設免許。

30（火）●日・英・米・仏、呉佩孚援助で一致と新聞に。

31（水）●傍聴を許されなかった軍法会議を初めて公開。

「写真通信」

▲婚約を前に良子さま、潮干狩り(6月10日)久邇宮家一行38人が、千葉・幕張海岸でにぎやかに春の行事を楽しんだ。右側の女性が良子さま(19)、左端が父・邦彦王。

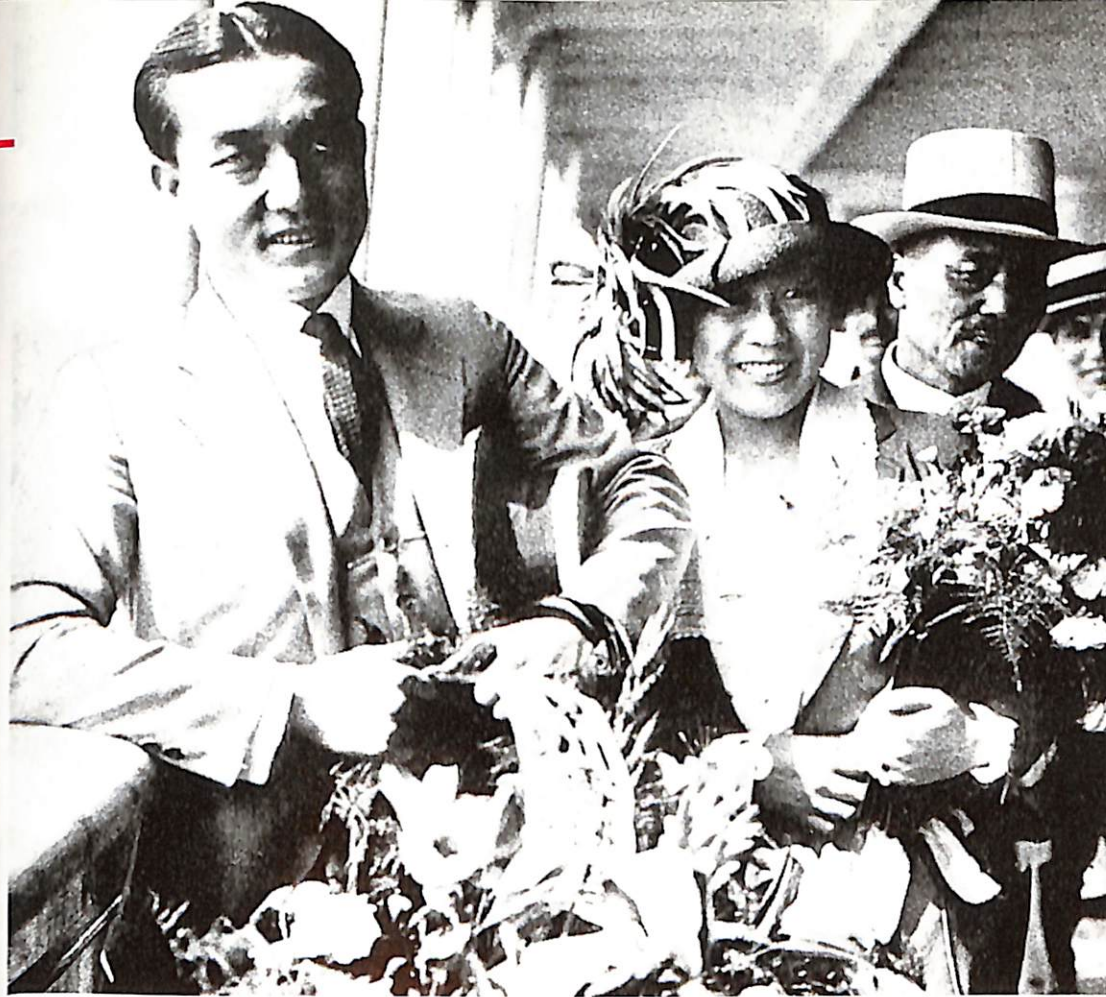
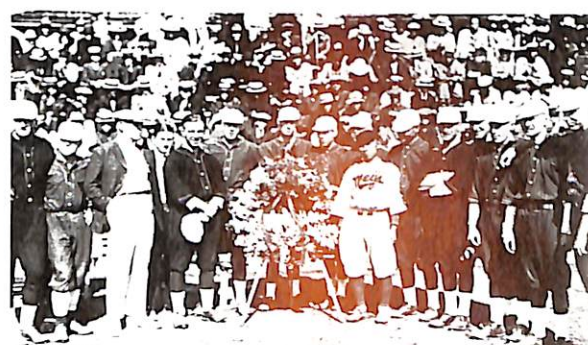
▼民間飛行士飛行競技大会開く(6月2日)帝国飛行協会が技術向上のため企画。千葉県の下志津陸軍航空学校で、紅一点の兵頭精を含め、15人が高度・速度を競い合った。

「写真通信」

「写真通信」

▲国際スターの早川雪洲、13年ぶり帰国(6月30日)米映画「チート」で残忍な日本人高利貸しを演じ、国辱と騒がれている渦中だった。36歳。横浜港に入港した「天洋丸」上で夫人と。

▶ラーテナウ独外相暗殺(6月24日)ソ連とラパロ条約を締結、ユダヤ人ということもあって極右テロの標的に。写真は葬儀の日、ベルリンの大通りを埋めた右翼弾劾のデモ。

「イリュストラシオン」

「写真通信」

▲明大、米野球チームと対戦(6月1日)サンフランシスコ・カレジアンに慶大三田球場で初挑戦、7対3で敗北。翌日は12対2の大差で雪辱した。写真は初戦後の両軍。

毎日新聞社

▶加藤友三郎内閣成立(6月12日)閣内不統一のため崩壊した高橋是清内閣の後を継ぎ、行財政整理、軍備縮小を掲げて組閣。海軍大将、ワシントン軍縮会議全権委員だった。

大正11年6月

1(木)●賀川豊彦がベストセラー『死線を越えて』の印税の一部を基金に、大阪労働学校を開校。
●京大、教授陣を一気に二八人増員と決定。

2(金)●不景気で捨て子が激増、と新聞に。

3(土)●森永製菓、練乳の製造を開始。

4(日)●秋田県で映画館から出火、一九〇戸焼失。

5(月)●摂政宮、農務局長を招き小作争議問題につき意見聴取。

6(火)●高橋内閣、内閣不統一で総辞職。政友会は内閣改造に反対した中橋文相ら六人を除名処分。

7(水)●ライト設計の自由学園新校舎が完成し、披露。

8(木)●横浜の遊廓で天然痘発生、パニックに。

9(金)●今和次郎著『日本の民家』刊行。

10(土)●東京弁護士会、営業区域制限に反対。

11(日)●黎元洪が中華民国大総統に就任。

12(月)●加藤友三郎内閣、成立。

13(火)●原敬元首相暗殺犯・中岡艮一に無期懲役。

14(水)●埼玉県入間郡で小学校の建設費めぐり紛争、住民が郡役所に押し寄せる。

15(木)●オーストリアで経済恐慌の様相、と新聞に。

16(金)●陳炯明が呉佩孚と通じ、孫文の広東政府を攻撃。孫文は上海に逃れ、北伐は失敗に終わる。

17(土)●奉直両軍が講和、第一次奉直戦争終結。

18(日)●オリンピックから閉め出されたドイツが、ベルリンでスポーツ祭典。

19(月)●品川—横浜間の「模範道路」を全国の土木課長が視察。

20(火)●摂政宮と久邇宮良子女王の結婚に勅許。

21(水)●遠賀川の渇水で八幡製鉄所が操業中止の危機。

22(木)●対ロシア非干渉同志会が東京で発会式、警察に解散させられる。

23(金)●横須賀海兵団で下士官らの帰休退団始まる。

24(土)●政府、一〇月中にシベリアから撤兵と声明。
●独外相・ラーテナウ、反動派に暗殺される。

25(日)●大正天皇の次男・淳宮雍仁親王が成年式、秩父宮を称す。

26(月)●関西電気、九州電灯鉄道など八社を合併し、東邦電力と改称。
●東京市政調査会、発足(会長・後藤新平)。

27(火)●関門海峡で、海難救助中の巡洋艦「多摩」に、潮流に乗った帆船が次々衝突、沈没。

28(水)●福山市付近で日本住血吸虫病が多発と新聞に。

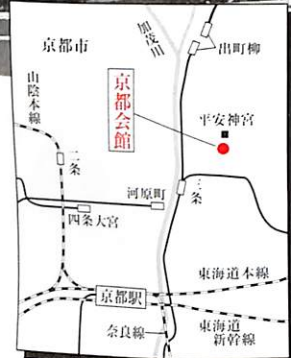
29(木)●徳島動物園が完成、檻の内部を一般に開放。

30(金)●全国商業会議所連合会、営業税全廃を陳情。

「現場」を歩く 京都

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」——全国水平社創立と差別との闘い

山本徹美

▲京都会館。玄関左の石のモニュメントが、「全国水平社創立の地」の石碑。 奥村健太郎

京都市 / 加茂川 / 出町柳 / 山陰本線 / 京都会館 / 平安神宮 / 二条 / 三条 / 河原町 / 四条大宮 / 東海道本線 / 京都駅 / 奈良線 / 東海道新幹線

大正一一年三月三日正午、通称、岡崎公会堂こと京都市公会堂で、全国水平社の創立大会が開催された。

「我々三〇〇万の呪われの人々が、今やみずから運命の上にたちあがって人間の自由を叫ぶ時が来た」

南梅吉(四四=後に中央執行委員長)による開会の辞に続いて、桜田規矩三が、

「一、我々特殊部落民は部落民自身の行動によって絶対の解放を期す。一、我々特殊部落民は絶対に経済の自由と職業の自由を社会に要求し以て獲得を期す」

などと綱領を朗読。さらに駒井喜作が、宣言を読み上げ、

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」

と、結んだ。ここに差別糾弾闘争が本格的に開始される。

会場となった岡崎公会堂は大正六年に完成。その収容能力から、この日、会場に集結したのは三〇〇〇人前後とされてきた。が、駒井忠之水平社歴史館建設委員会事務局員によると、実際には約七〇〇人だったという。

「ここを会場に選んだ理由はさだかではないのですが、その一〇日前に大日本平等会が大阪で演説会を開いていたので、大阪は敬遠。交通の便や南委員長の地元であることから決まったようです」

同年一二月、内務省警保局の調べでは水平社は全国で二二団体。奈良(九)、三重(六)、大阪(三)、京都(二)、愛知、埼玉各一と関西中心だった。

光を求めて七六年

岡崎公会堂を訪ねてみる。本館は昭和九年九月、室戸台風によって倒壊。昭和三五年四月、京都会館として開館し、現在にいたっている。中庭をはさんで東側に別館が建っている。これは昭和五年の建造で、建築様式はかつての岡崎公会堂と同じだという。その入り口左側(北)に、生け垣に囲まれたモニュメントがある。近寄ってよく見ると、京都市が建てた石碑「全国水平社創立の地」であった。

昭和一七年一月、水平社は、言論・出版・集会・結社等臨時取締法によって存続を「不許可」とされ解散するが、敗戦後の昭和二一年、部落解放全国委員会結成。同三〇年、部落解放同盟と改称し運営されている。

「全国大会は、〝創立の地〟京都にこだわることなく、東京(平成九年)、福岡(同一〇年)と、各地で開催しています。環境面ではかなり改善されてきたと思いますが、結婚、就職ではまだ差別がある。全国水平社の歴史と伝統を継承し、部落差別を含めすべての差別と闘い、人権施策の確立を求めてゆきます」(部落解放同盟京都府連合会・北山敏博事務長)

大正時代と比較して、わが国の経済状態は、はるかに豊かになっている。が、人の心はどうだろう。差別される〝痛み〟はまだまだ理解されていない。むしろ、顕在化はしないものの形を変えた差別が生まれつつあるように思えてならない。

部落解放同盟中央本部編『写真記録全国水平社七十年史』

▲全国水平社創立大会の主要メンバー。左から阪本清一郎、楠川吉久、西光万吉、平野小剣。

ベストセラー
志賀直哉の唯一の長編『暗夜行路』前編が刊行

▶「エトランゼエ」（春陽堂、1円70銭）
日本近代文学館提供（4点とも）

島崎藤村の『エトランゼエ（佛蘭西旅行者の群）』が、この年九月に刊行され、短期間の間に何回も版を重ねるほどの人気を得た。

四六判で本文四三〇ページを超える分厚い旅行記だったが、大正二～五年にかけて、三年間滞在していたパリでの出来事が生き生きと描かれており、時代の雰囲気にふさわしい、エキサイティングな読み物になっていた。たとえば、北欧から南下しながら演劇を見て歩く小山内薫が藤村のもとに滞在した時、折からパリ公演に来ていた舞踏家・ニジンスキーの舞台を何度も一緒に観に行くくだりなどは秀逸だった。小山内薫の舞台にかける情熱や、ニジンスキーへの彼らの思いがストレートに伝わってくる、生きたガイドブックでもあった。

またこの年、志賀直哉の長編小説『暗夜行路』の前編が刊行されている。ちなみに後編は昭和一二年、改造社版『志賀直哉全集』に前編とともにおさめられた。

この前編冒頭の「序詞（主人公の追憶）」は、この物語全体の大きな伏線を描いているばかりか、それ自体でも幼少年期の少年の感性をみずみずしく描いており、後世に大きな影響を与えることになった。私（時任謙作）の母が産後の病気で死に、なぜか祖父に引き取られるところから始まり、いささか謎めいた話が繰り広げられる。その後、この物語は、不倫、裏切り、放蕩などがないまぜになりながら、ドラマチックな展開を見せていくのであった。

◀『暗夜行路』（新潮社、2円50銭）

一方、童話・童謡の大流行は勢いの止まるところを知らなかったが、この年、読者対象を少女にしぼった「令女界」が創刊された。加藤まさを、蕗谷紅児、岩田専太郎（当時は抒情画を描いていた）らが挿絵を描き、足立源一郎、吉屋信子らが執筆し、編集方針としては「けばけばした事を避けて至極感じのい、のを随分工夫した」雑誌だったが、読者本位の雑誌であることを強調し、もし読者が色刷りを望むなら、すぐにも実行しましょうと言い切るほどだった。

▲「令女界」（宝文館、30銭）

▶「令女界」創刊号に掲載された蕗谷紅児の挿絵。

スターと名場面
L・ギッシュ、ヴァレンチノの「東への道」「黙示録の四騎士」

D・W・グリフィス監督の代表作のひとつ「東への道」が、この年公開された。主演はリリアン・ギッシュ。その可憐な仕草と豊かな表情は、音声をともなわないサイレント映画でも十分魅力的だった。しかもラスト近くで、流氷の上に横たわったまま流される過酷なシーンがあり、女優としての芯の強さも見せた。

一方、男優の方では、二枚目スター、ルドルフ・ヴァレンチノが「黙示録の四騎士」（レックス・イングラム監督）で女性ファンを沸かせた。物語も雄大で、スペインからアルゼンチンへ移住し大富豪となった一家の盛衰と、戦争（第一次世界大戦）によって生まれる悲劇を描いたスペクタクル映画だった。

邦画では、尾上松之助が大活躍する「渋川伴五郎」（築山光吉監督）が公開された。トリック撮影も駆使した映画で、ファンを大いに喜ばせた。なお現在残っているこの作品のフィルムは、シーンによって、フィルム全体の色調を変える〝染色フィルム〟によるもので、当時の映画の楽しみ方を味わえる。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「京屋襟店」（藤野秀夫）「地獄船」（井上正夫）「散りゆく花」（リリアン・ギッシュ）

▲「東への道」で、運命に翻弄されながら生き抜く女性を演じたリリアン・ギッシュ。

▶ルドルフ・ヴァレンチノ（中央右）が「黙示録の四騎士」の中で披露し話題となった、タンゴを踊るシーン。

▼「渋川伴五郎」で、妖怪と大立ち回りを演じた尾上松之助（右）。

マツダ映画社提供（3点とも）

モノ語り'22
「金鳥かやいらず」「N型万年筆」「グリコ」の〝革命的〟アイディア

◀**栄養をテーマにしたお菓子** グリコーゲンを含むお菓子「グリコ」が、江崎商店（現・江崎グリコ）から発売された。独自性を出すため、パッケージに工夫を凝らした。商標としてゴールインマークを採用し、「一粒300メートル」という具体性を持つキャッチフレーズをつけた。これは、実際に栄養価を計算したうえで出した距離だった。10粒入り5銭、20粒入り10銭と手頃な価格だった。

▲**蚊取り線香の革命的アイディア** 大日本除虫菊から、渦巻き型蚊取り線香「金鳥かやいらず」が発売され、世間のど肝を抜いて、大ヒット商品となった。それまでは棒状線香で、1本40分程度しかもたなかったので、しばしば取り替えなければならなかった。ところが、渦巻き型という画期的なアイディアが出て、1本の蚊取り線香で約7時間もたせることが可能になった。一晩中、蚊に刺されることなく安眠できるようになったのである。1箱20銭だった。

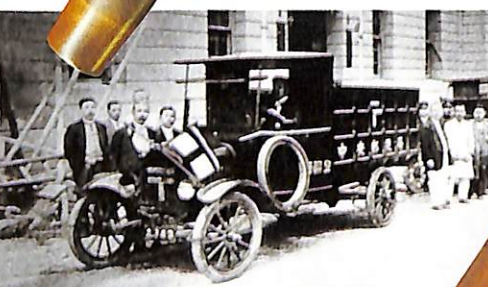
▼**アイロンが電化された！** 洋装が進むとともに必要になったアイロンだが、この頃はやっと、木炭を熱源としたものからガスを熱源としたものに切り替えられつつあった時代だった。そこへ芝浦製作所（現・東芝）から「マツダ電気アイロン」が発売されたのである。その機能性の高さは、たちまちのうちにガスアイロンを駆逐して、電気アイロン時代を迎えることになった。

◀**断然使いやすくなった万年筆** パイロットが1本4円50銭で発売した「N型万年筆」は、首の部分がまわるようになっており、印を合わせるとインキが流出し、ずらすとインキ弁が閉じるというものだった。インキの注入も、首の部分だけはずして行えるので簡単。非常に使いやすいと世界各国で好評を博し、輸出も大幅に増加した。

世界に普及したT型フォード

アメリカの農業ニーズにこたえて開発された、丈夫で使いやすい自動車「T型フォード」は、その特徴から世界を席巻する自動車になった。1927年までに世界19ヵ国で生産・販売されるまでに普及したのである。日本では まず、セール・フレザー社が輸入・販売していたが、関東大震災を機に「円太郎バス」と呼ばれるバスを生産・販売するようになった。このバスは、TT型シャシーにバスボディを乗せたもので、震災後の東京を走りまわり、自動車の普及に大いに力を貸したのである。写真はセール・フレザーのカタログ表紙。グローバルな車であることを強調している。

◀フォード社の沿革や車両の特徴、種類などが説明されたカタログ。

トヨタ博物館「20世紀の遺産 T型フォード展」より　逓信総合博物館蔵

トヨタ博物館「20世紀の遺産 T型フォード展」より／逓信総合博物館蔵

▲**自動車がとうとうヒット商品になった** アメリカで生まれたT型フォードは、軽量で頑丈、操作が簡単という大きな特徴を持ち、かなりの早さで普及していった。そのバリエーションである「TT型シャシー・トラック」は、日本でも大正6年に代理店のセール・フレザー社から発売されたが、この頃には、輸送業者や新聞社などの貨物輸送によく使われるようになっていた。写真は、大阪中央郵便局で活躍していた「TT型シャシー・トラック」の集配車。

▲**薬屋さんが体温計を売り出した** まだ体温計が一般家庭に普及していない時代に、何とかこれを普及させ、保健医療に一石を投じようと考えた森下博営業所（現・森下仁丹）は、1本2円30銭（大正15年の資料による）で「体温計」を売り出した。しかし当初は思うように売れず、ダイレクトセールなどの工夫を経て、徐々に業績を上げていったのである。

人物クローズアップ

本多光太郎(五二)

世界最強「KS鋼」発明者が金属材料研創設に賭けた夢

研究所の数が多いことから、〝研究所大学〟の異名もある東北大学の中でも、その実績によって、日本だけでなく広く世界に知られているのが、「東北大学金属材料研究所」である。この研究所が発足したのは大正一一年八月九日、所長には本多光太郎教授(五二)が就任した。

「金属材料研究所」の前身は、大正五年四月に新設された「臨時理化学研究所第二部」だった。成果は早くも大正五年の冬に現れる。世界最強の磁力鋼「KS鋼」の発明である。KSの名は、研究費の一部を寄贈した住友家の当主、住友吉左衛門のイニシャルからとられた。こうした実績をもとに、「理化学研究所第二部」は大正八年五月、「東北帝国大学附属鉄鋼研究所」に昇格する。

続々と生み出される成果と実績によって、「鉄鋼研究所」は国内だけでなく、欧米各国からも注目されることになったが、しかし所長の本多には、この名は不満だった。アルミやマグネシウム、銅、亜鉛なども研究するのだから、いかに「鉄鋼研究所」の名が有名になろうと、それではいけない、と考えたのである。「東北大学金属材料研究所」は、こうして誕生した。

本多光太郎は、明治三年二月二三日、愛知県碧海郡矢作村(現・岡崎市)生まれ。一四年、尋常小学校を卒業し高等科に進んだが、学校の成績はかんばしくなかった。六人兄弟の末弟で、茫洋とした性格。争いごとを好まず、いつも柔和だが、鈍重で学問もあまりできない。そんな本多少年にも、人にはけっして負けないものがあった。努力をおしまない粘り強さである。二〇年、本多は志を抱いて上京した。東京で本多の面倒をみたのが、次兄の浅治郎だった。浅治郎は秀才の誉れが高く、当時帝大の学生だったが、苦学をしながら本多の学費を出し続けた。

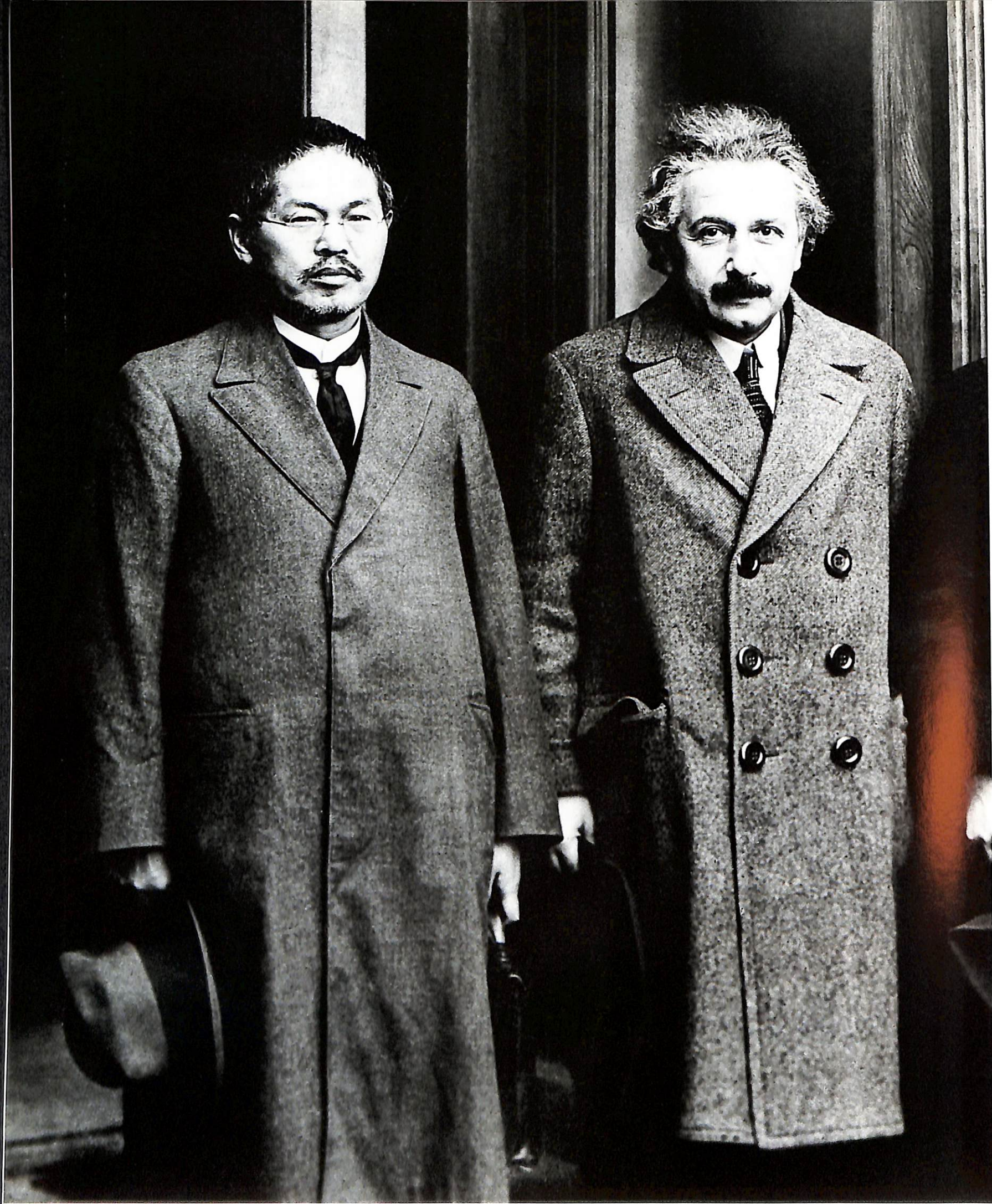
明治二二年、第一高等中学校入学、二七年、同校卒業と同時に帝大理科大学物理学科に入学する。田中館愛橘、長岡半太郎という物理学の泰斗を知ったのはこの時である。大学院を経て東京帝大講師となったのは、明治三四年だった。

実験物理学から磁性材料に進んだ本多の研究は、その性格のままに実に粘り強いものだった。明治四四年、四年間の英・独留学の後、東北帝大理科大学教授に就任。東北帝大の物理学を背負っていくことになった。前東北大学学長の西澤潤一氏は、本多について次のように語る。

「学者としての先生は申すまでもないですが、教育者としての先生は、学生より研究者の育成に力を注いだ方でした。『金属材料研究所』ほか東北大の研究所はその成果ですし、東京理科大学設立や仙台の理研設立にも先生がかかわっておられます。先見の明があったんでしょうね」

昭和八年、金属材料研究所は保磁力が「KS鋼」の四倍という「新KS鋼」を発明するが、研究所ではそうそうたる人材も育っていた。茅誠司(後に東大総長)、増本量(後に金属研究所所長)、真島正市(後に東京理科大学学長)などの気鋭の学者たちである。

そして、東北帝大総長を昭和六年から三期九年つとめ、一二年、師の長岡半太郎らとともに、第一回の文化勲章受章者となった。戦後は東京理科大学学長などをつとめ、昭和二九年二月一二日死去。八三歳だった。

▲明治42年7月、本多光太郎が留学していたドイツのベルリンで、研究仲間と記念撮影。左から光太郎、桑木彧雄、友田鎮三、寺田寅彦。 本多トミ子提供

▲この年11月、物理学者のアインシュタインが来日。東京をはじめ各地で講演を行ったが、写真は仙台を訪れた時のスナップ。左・光太郎、右・アインシュタイン。 本多トミ子提供

決定的瞬間

一〇年の月賦払いもOK！ 渋沢栄一が田園調布の街作り “東京”膨張へ土地分譲開始

◀当時の田園調布駅前広場。扇形に道が広がるモダンな街作りが、注目された。2人の男性の後ろには、分譲地が広がっている。
東京急行電鉄提供

完成直後の東京・田園調布駅前広場を撮影した珍しい写真である。植えられたばかりの街路樹を背に、フロックコートの男が二人立っている。男たちは「ここより先立ち入るべからず」とでも言っているようだが、背景に広がる分譲地には、日本近代資本主義の父とも言われた渋沢栄一（八二）の最後の“夢”が広がっていた。

分譲地は目蒲電鉄（現・東京急行電鉄）の田園調布駅を中心に、同心円と放射線状に広がる道路で区分され、道路、公園、広場など公共部分のスペースをたっぷりと取った理想的住宅地となるはずである。その規模約一六〇万平方メートル。第一期分譲は、大正一一年の六月に洗足地区から始められ、一区画は一〇〇坪から五〇〇坪。月賦払いの場合は、頭金二割、一〇年月賦で一〇〇〇円につき月一三円二〇銭の支払いなどという制度もあった。

◀大正一二年三月撮影の田園調布駅。東京急行電鉄では、近い将来この駅舎を再現する予定だ。
東京急行電鉄提供

この分譲地に家を建てる時には、「他の迷惑になるがごとき建物を建造せざること」をはじめとして、建物は三階以下、建蔽率は五割以下、隣家との境は生け垣などで区分する、という条件があった。こうした方針に賛同した人も多く、第一生命保険相互会社の創立者・矢野恒太も田園調布に昭和の名建築「蒼梧邸」（昭和二年）を建てた。鉄道の開通（大正一二年、目黒蒲田電鉄開通）も有利に働き、第一次分譲地は予約段階で八割の応募があるという好調さ、翌年の第二次分譲も順調に売れていった。

▲渋沢栄一。明治維新後大蔵省に入り、明治6年第一国立銀行設立。退官後は実業に専念。都市開発にも活躍した。

◀現在は都内有数の高級住宅地になっている田園調布駅前。「田園調布の由来」を記した看板がある。
楠田守

ところで、渋沢栄一は日本の銀行制度を作り上げ、五〇〇社以上の会社を設立した経済界の重鎮であるが、一方で都市開発にも深くかかわってきた人だった。

建築史に詳しい東京大学・藤森照信教授は渋沢栄一を「東京の街作りと最も縁の深かった個人」（「東京人」平成元年一〇月号）と位置づけ、彼が関係した都市開発として、兜町ビジネス街計画、銀座煉瓦街計画、市区改正計画、田園都市計画などをあげている。

開発の主体となる田園都市株式会社は、東京商業会議所会頭・中野武営などの経済人を加え、渋沢栄一の三男・渋沢秀雄（当時・二六歳）を社長として大正七年に創立。田園都市という言葉はまだ珍しく、郵便局で「タゾノトイチさん」と呼ばれたり、電話口では「デンセン・ボチ？」「伝染病の墓地ですか？」と間違えられたりしたそうだ。この当時の東京は、労働人口が農村部から大量に流れこみ、住宅地は日本橋を中心として一二～一六キロの地域までに広がっていた。田園都市が構想された荏原郡洗足池、玉川村、調布村など多摩川河畔一帯の高台はまさにその最前線であった。

第一回の土地分譲売り出しが行われた翌年、大正一二年九月一日には関東大震災が起き、京浜一帯は大きな被害に遭う。

渋沢秀雄は軽井沢のホテルで震災を知り、ただちに帰京。瓦礫の山と化した東京では徒歩で両親の家までたどり着き、二日後、自転車で分譲地まで駆けつけ、洗足地区の住宅一軒一軒を訪ね歩いて無事を確認した。分譲地では青々と樹木が茂り、小鳥さえさえずっている。「まるで地獄から天国に来たようだった」（『東京急行五〇年史』）と述べている。渋沢栄一が夢見た田園都市は地震の被害にも強いことを立証し、大いにその信頼性を高めたのである。

美の出会い

大谷石や常滑製のタイルでライトと日本の職人が合作 帝国ホテル新館オープン！

▲帝国ホテル正面玄関。フランク・ロイド・ライトの設計になるこのホテルは、その静かなたたずまいと豪華さで多くの人に愛されたが、昭和42年に取り壊された。　帝国ホテル提供

大正一一年七月一日、アメリカの建築家、フランク・ロイド・ライト（五五）の設計による帝国ホテルが、工事続行中の新館で一部営業を開始した。外装や室内には栃木県産の大谷石をふんだんに使い、壁面は愛知県の常滑で焼いた黄土色のタイルを配したもので、堂々とした風情と大胆な凝った意匠が目をひいた。

そもそも帝国ホテルが開業したのは、三二年前のこと。欧米から来日する高官や財界人など、外国人の客がふえてきたこともあって、外務大臣・井上馨の発案をもとに、渋沢栄一、大倉喜八郎ら財界人によりホテル建設計画が発足し、明治二三年一一月二〇日、東京・丸ノ内山下町一丁目に客室六〇でオープンしたのが始まりである。ところが、明治三〇年代末頃には、急増する外国人利用客に対応しきれず、施設の老朽化もあり、新築の必要性に迫られていた。

新ホテル建設の話がレールに乗り始めたのは、大正四年になってからである。設計者として、浮世絵収集家で日本建築にも強い関心を持っていたライトが選ばれた。大正四年一二月、帝国ホテル支配人の林愛作が渡米し、ライトと契約覚書を交わす。工期二年、予算一三〇万円、ライトの報酬は建築完成に要する総費用の五％だった。これは後に工事期間が五年以上におよんだことや、建設費が九〇〇万円に膨らんだことなどで問題となる。

ライトが留意したことのひとつは、地震国日本の地盤である。丸ノ内界隈は、その江戸期にできた埋め立て地であり、その下には軟らかい粘土層が二〇メートルあって、さらにその下に基礎層があるという地盤だった。ライトはこの粘土層をクッションとして、船が海水に浮かぶように、泥の上に建物を浮かせるようにすることを考え、地震の裏をかくことを計画した。この考え方の正しさは、翌一二年の落成式当日に起こった関東大震災で証明される。周辺の建物が大被害を受けた中、この帝国ホテルだけが、ほとんど無傷だったのである。

▲帝国ホテルの設計を担当したフランク・ロイド・ライト。

▲宴会場の廊下。当時、帝国ホテルを取材した「主婦之友」の女性記者は、「旅人の心をしめやかにかき抱く静寂と荘厳さが静かに流れているだけです」と記している。　帝国ホテル提供

建物を特徴づけるスダレ煉瓦は、愛知県知多郡西浦町に帝国ホテル煉瓦製作所をおき、ライトの指導のもとに製造。表面にひっかき傷のついた外装用のスダレ煉瓦やテラコッタ風煉瓦など、約四〇〇万個の煉瓦が焼かれた。また、石材については、いろいろな種類の中からライトは大谷石を選んだ。日本ではこれまで門や塀、倉庫などに使われてきたもので、帝国ホテルは栃木県河内郡城山村に一万九〇〇〇平方メートルの土地を買い、大谷石を切り出すことにした。

大谷石が高く積み上げられた建築現場で、ライトは石工職人たちに洋式工法を教えようとしたが、石工たちは耳をかそうとしなかった。彼らは自分流のやり方を踏襲し、立派に仕事をはたしていった。この時のことを、ライトは後に『自伝』に記している。

「彼らは、どれほど腕がよかったことか。なんという手職人であったことか。どれほど辛抱強く、賢かったことか」（中央公論美術出版）

ライトの情熱を支えたのは石工ばかりではなかった。大工や家具職人らすべての職人たちが、誇りを持って仕事をこなし、最高の建築を生み出していった。こうして大正一二年八月、帝国ホテルはついに完成する。鉄筋コンクリート・煉瓦コンクリート造り、地上五階、地下一階、延べ床面積一万五三五坪、客室二七〇。それに大中小の宴会場、演芸場、ダンス場、グリル、パーラーなどが有機的に結びついた、壮麗でドラマチックな空間が創出された。ただ泊まるだけのものではなく、都市の文化センターとしての役割をはたすものとなった。

以後、大正末から昭和にかけて、帝国ホテルの演芸場では菊池寛や正宗白鳥の劇が上演されるなど、当時のインテリの社交場としても使われた。それ以前の「官僚的」な印象のホテルから脱して、市民への志向を強く打ち出していった。戦後はGHQが接収。その使用により傷みがまし、昭和四二年、高層の新ホテル建設の話とともに、ライト館解体の話が伝わった。

一部でも保存しようと救援の手を差し伸べた建築家の谷口吉郎と明治村の努力により、現在、愛知県犬山市の博物館明治村に、このホテルの中央玄関のみが移築・復元されている。

「一階にホテル関連の資料、二階に喫茶室を設けています。明治村の中でも、人気の高い建物ですね」と同村学芸員の遠藤照子さんが話してくれた。

▲昭和42年に取り壊された帝国ホテルの一部、中央玄関とホールが、現在、明治村に移築・保存されている。写真は明治村内で営業中の喫茶店。　博物館明治村提供

5色刷り、定価50銭の"豪華版"も
「コドモノクニ」「童謡」「オヒサマ」……続々創刊！
大正に花開いた「児童雑誌」ブーム

◀「コドモノクニ」創刊号。大正11年1月刊。表紙は武井武雄。戦前の日本を代表する幼児向けの児童雑誌だった。
日本近代文学館提供

武井三春提供
▲「コドモノクニ」の表紙や挿絵に活躍した武井武雄。

大正七年七月、鈴木三重吉によって「赤い鳥」が創刊されたのに続き、デモクラシーの波を背景に新しい児童雑誌が次々と登場した。中でも大正八年の「金の船」（一一年「金の星」と改題）、九年の「童話」はその代表的なものだった。そして大正一一年、児童雑誌ブームはその頂点を迎える。

児童雑誌ブームの頂点「コドモノクニ」の鮮烈さ

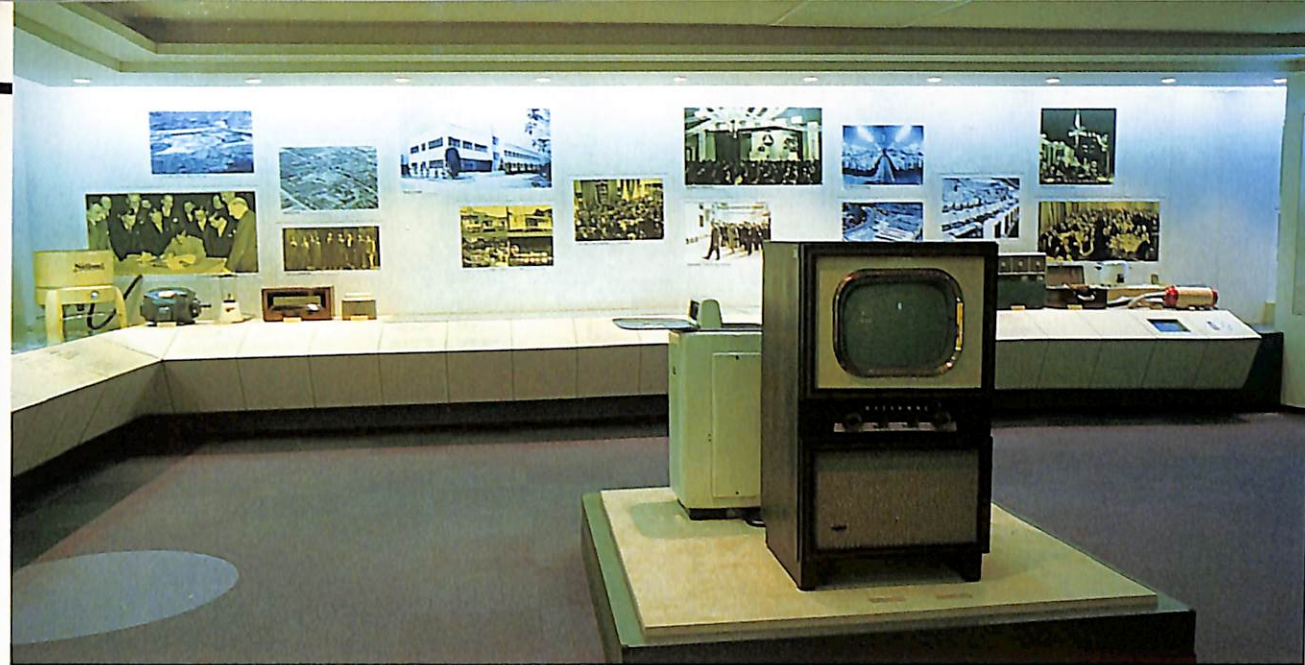
大正一一年は童話から童謡、そして絵本まで出そろい、童話ブームがピークを迎えた年だった。そしてこの年も児童雑誌の創刊が相次いだ。中でも一月に東京社（現・婦人画報社）から創刊された「コドモノクニ」は、画期的なものであった。

この絵を中心とした児童雑誌は、編集主任が「少女画報」の編集長だった和田古江（四一）、絵画主任が舞台美術などで活躍した岡本帰一（三三）、編集顧問には幼児教育の第一人者、倉橋惣三（三[illegible]）、さらに童謡顧問に北原白秋（三六）、野口雨情（三九）という、そうそうたるメンバーでスタートした。

判型も四六倍判と従来の児童雑誌のA5判よりひとまわり大きく、総頁数は表紙も含めて全体で三六ページ、オフセット五色刷り。定価は五〇銭。当時、ほかの児童向けの絵本は五銭から一〇銭だったから破格の定価だったと言える。発行部数は二万部弱だった。この「コドモノクニ」の大きな画面と多色刷りのカラフルな誌面は、読者に豪華かつ鮮烈な印象を与えた。

とりわけ、厚紙を使ったことは今も語り草となっている。創刊号の表紙を飾った童画家・武井武雄の回顧によれば、「編集者の和田古江がアメリカの大型雑誌『ザ・ムーン』と同じものを出したいと自分のもとに相談に来たので、ぜひやろうということになった。しかし特別注文した紙が間違って漉けてしまったのを、ものは試しと刷ってみたら、まさに怪我の功名で、っ

20世紀博物館 松下電器歴史館
「アタッチメントプラグ」から始まる庶民の生活"電化"史
大阪・門真市

桑原茂夫

▲戦後の生活を大きく変えた"三種の神器"などが並ぶコーナー。 石井美雄

この「松下電器歴史館」は、平成七年三月七日、松下幸之助の生誕一〇〇年を記念して改装、開館している。その時、館の名称に副題がついた。「松下幸之助メモリアルホール」がその副題で、館内展示も、松下幸之助の歩みや考え方などを軸にあらためて組み立てられた。

そうは言っても、庶民生活の電化に深くかかわってきた人だから、その製品展示などによって、結局は庶民の生活史、中でも電化をテーマにした生活史を描き出す博物館になっている。

最初の展示ブロックには「創業の家」がある。これは大正七年に松下電気器具製作所を創立した、その当時の製作所を再現したもの。二階建ての貸家の階下三室を改造した製作所で、設備といえば小型プレス機が二台だけ。ここから「アタッチメントプラグ」が生まれた。

▲大正時代の製品が並ぶコーナー。写真左手前に見えるのが、大ヒットした「砲弾型電池式ランプ」。

▼昭和39年に400万台出荷を達成した電気洗濯機「愛妻号」。庶民生活の電化を象徴する機種でもあった。

アタッチメントプラグは、これを電源に差しこみ、そこから延長コードを使えば、必要なところで電気を使えるというもの。つまり、家庭内の電気配線を容易にする画期的な配線器具だったのである。今では電気はどこででも使えるという感覚があるが、当時は電源が固定されているのが当たり前だったから、これは重宝がられた。簡単な配線器具を作ればたくさんの需要が生まれるという、松下幸之助の読みはみごとにあたったのである。

その後も「二またソケット」など、電気の使い勝手をよくする製品の開発が続けられ、やがて大正一二年、「砲弾型電池式ランプ」という、これも画期的な自転車用照明具を開発・販売し、翌一三年には月一万個を超える売れ行きを示す、大ヒット商品に育て上げた。

昭和に入ってからも庶民生活を支える電化製品の開発は続く。昭和二年にスーパーアイロン、翌三年に電気ストーブ、四年に電気コタツ、六年にラジオ受信機などが開発・販売され、さらに昭和二〇年代後半には、テレビ、電気冷蔵庫、電気洗濯機など、後にいわゆる"三種の神器"と言われるほどの普及を見せた電化製品を世に送り出す。

こういった製品を見ながら展示コーナーを進んでいくと、映像コーナーで、松下幸之助の次のような表現に出会う。

「産業人の使命は貧乏の克服にある。そのためには物資の生産に次ぐ生産をもって富を増大しなければならない……産業人の使命は物資を無尽蔵たらしめ無代に等しい価格で提供することにある」

松下幸之助が、大量生産・低価格を実現し一時代を築いた背景に、このような考えがあったのだ。

たしかにこの資料館は松下幸之助のメモリアルホールではあるけれど、実は現在の産業社会と庶民生活の根元を、きわめて具体的に示す、生活博物館でもあったのである。

▲「創業の家」1階部分。土間にはプレス機がおいてある。ここから、家庭電化のポイントとなる製品が生まれた。

●松下電器歴史館
大阪府門真市門真一〇〇六
☎〇六－九〇六－〇一〇六
京阪本線西三荘駅下車、徒歩三分
開館時間＝九時～一七時
休館日＝日曜、祝日
入館料＝無料

やなしのおっとりとした色が出た」という。そしてこの紙の効用は「コドモノクニ」の名声を高め、後続の、絵が中心の児童雑誌はこぞって同じ紙を使用することになった。

「私の父は大正八年に東京美術学校を卒業し、油絵画家をめざしたのですが、生活がままならず、婦人之友社などでアルバイトで子どもの絵を描いていました。そのうち、これが一生の仕事だと目覚め、東京社の和田雅夫さんのもとに絵を持ちこみ、認められてからは一心不乱に子どものための絵を描き続けたのです」

武井武雄の長女・三春さん（現・六九歳）はこう語る。

童画家たちの活躍は、「コドモノクニ」の人気を高めた。従来、画家たちは「赤い鳥」の清水良雄、「おとぎの世界」の初山滋と、各雑誌になかば専属化していたが、その垣根は取り払われ、画家たちが結集して、自由に画想を広げ、児童雑誌に新風を吹きこんだのである。

▲「赤い蠟燭と人魚」などの作品で知られ、大正期の児童文学をリードした小川未明（右端）と家族。木挽社提供

▶鈴木三重吉と北原白秋。白秋は大正8年、前年から住んでいた小田原市に茅葺きの書斎を建て、「木兎の家」と呼んでいた。写真は8月、白秋を訪ねた三重吉（左）。木挽社提供

「児童雑誌は、児童音楽のひとつである童謡の舞台でもあれば、児童美術としての童画、さらには、童謡劇の止まり木でもあったのです」と語るのは、児童文化評論家の上笙一郎氏である。

大正十一年は、子ども文化のピークを迎えた年で、この年創刊された児童雑誌は、「コドモノクニ」のほかに、「童謡」（日本童謡協会）、「オヒサマ」（資生堂編集部）などであった。

上氏は「大正期は、児童文化のルネサンスにほかなりません。第一次世界大戦で一躍飛躍をとげた日本には、新しい市民文化が芽生え、明治以来の富国強兵教育の重圧をはねのけようと、特に弱者の立場にあった子ども、女性、労働者の自立がめざされたのです」とも語っている。

「少年倶楽部」の躍進と関東大震災による痛手

童話ブームの〝黄金時代〟の嚆矢となったのは大正七年七月、夏目漱石門下の小説家・鈴木三重吉によって創刊された「赤い鳥」（赤い鳥社）であった。

大正五年の長女・すずの誕生を契機に三重吉の童話にかける情熱は燃えあがった。創刊にあたっての決意を三重吉は「赤い鳥」の「標榜語」の中で「世俗的な下卑たる子供の読み物を排除して、子供の純性を保全開発するために、現代一流の芸術家の真摯なる努力を集め、兼て、若き子供のための創作家の出現を迎ふる、一大画期的運動の先駆である」とうたいあげている。

添削もすこぶる厳しかった。童話作家・坪田譲治は後に「幾分かの添削でも受けなかったものは一つもない。佐藤春夫先生すら及第点にはなれなかったと言っていた」（『児童文学の展望』二反長半著）と記した。

「赤い鳥」に参加した人々は、小川未明、谷崎潤一郎、芥川龍之介、菊池寛、島崎藤村など、豪華執筆陣であった。しかも、今日もなお名作としてあげられている「蜘蛛の糸」（芥川龍之介、大正七年七月）、「一郎次、二郎次、三郎次」（菊池寛、大正八年四〜六月）、「杜子春」（芥川龍之介、大正九年七月）など、多くの傑出した作品が生み出された。また、三重吉の児童綴り方指導に応募する児童が月六〇〇〇人にもおよんだこともあった。ドイツ文学者の高橋義孝も、『私の記者遍歴』で「自分でも童話を作り投稿し、雑記帳で自作詩集をこしらえて差し出した」と述べている。

こうしたさまざまな人の努力によって、童話ブームは花開いたのだが、あまり長続きはしなかった。相次ぐ児童雑誌の創刊に加え、大衆児童雑誌に人気が集まっていったからである。「赤い鳥」をはじめとする児童雑誌の発行部数は一般に二万〜三万部。一方、都会で人気を集めた「少年倶楽部」（講談社）は大正九年が八万部、大正一一年が二二万部、大正一三年には三〇万部の発行部数を誇っていた。

そして関東大震災の痛手も大きく、「赤い鳥」に続いた多くの児童雑誌も大正一五年にはそのほとんどが姿を消していく。「赤い鳥」自身も、昭和四年七月号で廃刊になる。そうした中で、「コドモノクニ」は生きのびるが、昭和一〇年頃からは創刊当時の自由な雰囲気はなくなり、一七年に入ると情報局の指導で検閲も強化され、内容も戦時色濃厚となる。そして昭和一九年、戦時統合にあって休刊、戦後も復刊されることはなかった。

木挽社提供

▲「赤い鳥」創刊号。鈴木三重吉が主宰して大正7年7月に刊行。大正期の児童雑誌を代表するもの。

日本近代文学館提供

▲大正8年11月から刊行されている「金の船」がこの年6月、「金の星」（写真）と誌名を変更。

▶この頃になると、図書館に児童のための読書室が設けられた。写真は岩手県立図書館児童室。

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

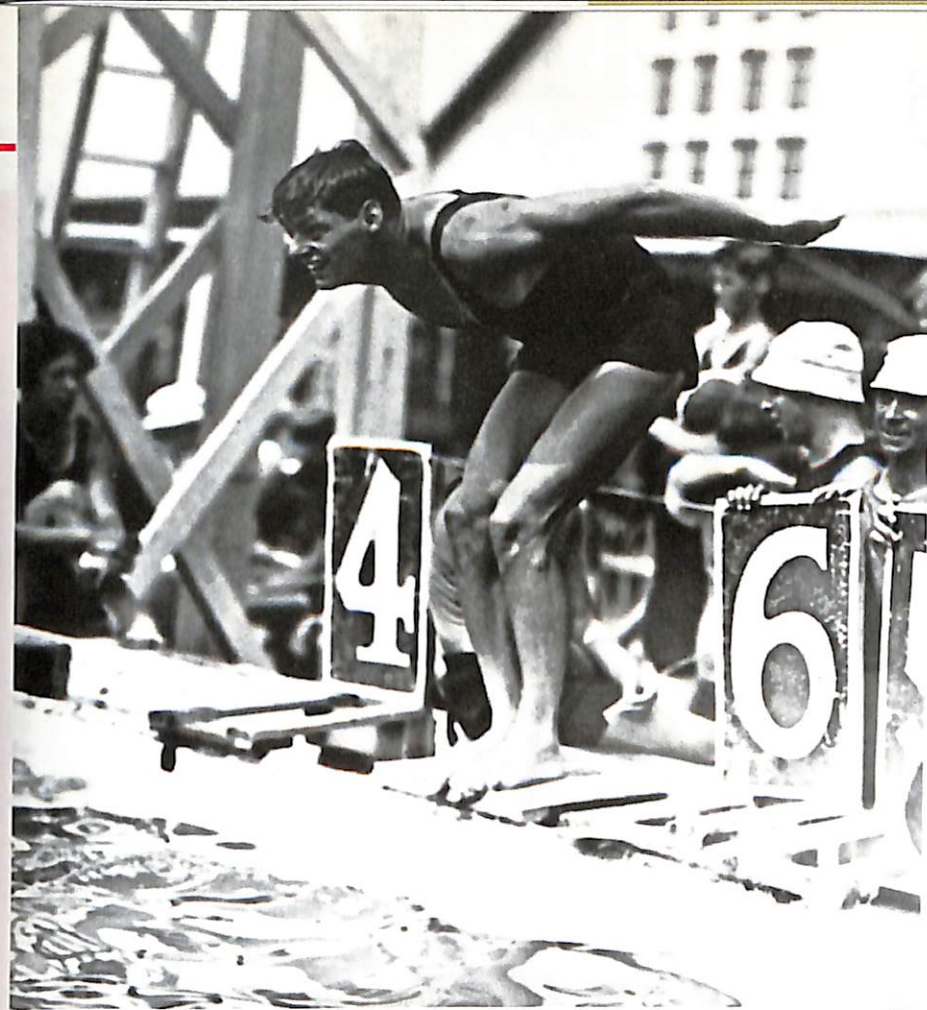
「写真通信」

▲**明治天皇10年祭(7月30日)** 大正9年創建の東京・明治神宮で、10回目の命日を記念した祭りが執行され、苑内は群衆で埋まった。写真は式典を終えて退出する祭官。

PPS

▶**天才ゴルファー出現(7月15日)** 米イリノイ州スコーキーで開かれた全米オープンで、20歳のジーン・サラゼンが予想外の優勝。後にサラゼンは、世界4大タイトルを制覇した。

▼**文化学院、ダンス公開(7月11日)** 生徒36人が、喜怒哀楽を表現。同校は愛と自由に基づく人間教育が目標。前年、西村伊作が与謝野晶子らを招いて東京・駿河台に開校した。

「国際写真情報」／国際フォト

PPS

▲**ワイズミューラー、1分の壁破る(7月9日)** 米の水泳競技大会で、100メートル自由形に58秒6の世界新。18歳。後に五輪に2度出場し、金メダル5個を獲得、「ターザン俳優」としても成功した。

▼**華族・有馬頼寧が「土に親しむ勤労デー」(8月20日)** 朝7時から、東京・日比谷公園で同愛会の会員30人と草刈り。同愛会は被差別部落解放をめざす団体で、有馬(37)が会長をつとめていた。

▲**マウントバッテン卿、結婚(7月18日)** 4月に英皇太子に随行して来日、日本人にもなじみ深かった。ビクトリア女王の曾孫で、第2次大戦後、インド総督に就任。

「写真通信」

大正11年7月

1(土)●台湾で酒類の専売制を実施。

2(日)●帝国ホテルがほぼ完成、落成披露。

3(月)●横浜商業銀行、貸付金回収不能から休業。

4(火)●官庁は夏季執務時間を八時～一五時とし、暑中休暇と土曜半ドンを返上と決定。

5(水)●海軍省は舞鶴などの軍港・要港の整理を内定。

6(木)●元禄風の市松模様の着物が大流行、と新聞に。

7(金)●宮城県宮村小学校訓導・小野さつき子、溺れた児童を救助中に殉職(「小野訓導の歌」できる)。

8(土)●ドイツが連合国に賠償金支払いの停止求める。

9(日)●米水泳大会の一〇〇㍍自由形で、ジョニー・ワイズミューラーが初めて一分の壁を破る。

10(月)●資生堂が米国から招いた美容師・グロスマンの髪型が大流行、と新聞に。

11(火)●梅根常三郎、品位の低い鉄鉱石の製鉄に適する「還元焼却炉」の特許を取得。

12(水)●仏のストラスブールで初の自動車GPレース。

13(木)●ヤップ島に関する日米条約の批准書交換。

14(金)●東京市衛生課はポンプ式屎尿汲み取り車を開発中、と新聞に。

15(土)●日本共産党が非合法に結成される。

16(日)●憲政会系団体、政党内閣を組織すると宣言。

17(月)●米で炭鉱ストに続き鉄道ストが激化。

18(火)●有島武郎、北海道・狩太(現・ニセコ町)の農場四〇〇町歩を小作人に無償提供。

19(水)●登山ブーム、日本アルプスに一日で三〇〇人。

20(木)●阪神電鉄従業員が談笑倶楽部名で労組結成。

21(金)●大同電力、遠距離送電方式による送電を開始。

22(土)●子ども服の需要が本格化、銀座に続々新店が開業、と新聞に。

23(日)●石川県輸出組合、不況のため羽二重休業決定。

24(月)●野田醤油で桶職工が棟梁と衝突、スト突入。

25(火)●東京・浅草で「人さらい」三〇人を一斉検挙。

26(水)●国際連盟、シリアを仏に、パレスチナを英に統治委任。

27(木)●閣議、現役軍人が中国中央政府や地方官憲に顧問として就任することを控える方針決定。

28(金)●京都大学、和歌山県に臨海研究所を開設。

29(土)●「読売新聞」、「信越電力発電所工事で、朝鮮人労働者多数が虐殺されている」とスクープ。

30(日)●東京市は一〇月までに水道の計量器取り付けをすべて完了する予定、と新聞に。

31(月)●伊共産党と労働組合が反ファシズムのゼネスト。ファシスト側はジェノバなどを占拠。

証言・あの日この日

江戸川乱歩(28)

12月2日(土) 〈二日、森下氏より「二銭銅貨」を称賛し、「新青年」に掲載すべき旨の手紙来る〉(江戸川乱歩『探偵小説四十年』)

日本の探偵小説の創始者とも言うべき江戸川乱歩は、この年9月、デビュー作となる「二銭銅貨」を書き上げる。さっそく、その頃「探偵小説通」として知られていた馬場孤蝶に送ったが、なかなか返事が来ない。乱歩はしびれをきらして、馬場から原稿を取り戻し、今度は、当時翻訳物の探偵小説を掲載していた「新青年」編集部に原稿を送る。そして、ようやくこの日、編集長直々の手紙が届く。森下氏とは当時「新青年」編集長の森下雨村。手紙には〈感心しました〉〈新青年で発表することにしませう〉と書いてあった。この夜、乱歩は興奮のあまり一睡もできなかった。こうして日本に探偵小説が誕生し、探偵小説ブームが始まる。 (山崎行太郎)

「警視庁百年の歩み」

▲**交通巡査に防暑用ヘルメット(8月1日)** 勅令発布とともに即日実行。コルク・灯心・ヘチマ・堅紙の4つの素材を白色の防水布でおおった試作品を100個作った。写真は東京・日本橋で。

「国際写真情報」／国際フォト

▲**午砲、陸軍とお別れ(8月14日)** 東京市民おなじみの宮城内本丸の「ドン」が、軍縮の影響で東京市に移管。写真は、陸軍所管最後の1発を発射する砲手。

「国際写真情報」／国際フォト

▲**暴風雨で軍艦「新高」沈没(8月26日)** カムチャツカ半島沖警備中、暴風雨により遭難。乗員343人のうち生存者はわずか16人だった。写真は、9月に東京の増上寺で行われた追悼会。

▼**暴風雨で東京水浸し(8月24日)** 26日も豪雨となり、下町を中心に7万戸が浸水。写真は荒川増水で流失寸前の千住大橋。幸い27日には減水した。

「写真通信」

PPS

◀**サッチモ登場(8月8日)** 22歳のルイ・アームストロングが、キング・ジョー・オリバーの「クリオール・ジャズ・バンド」に参加、シカゴにジャズ・エイジが開花した。後列中央がサッチモ、左から二人目がジョー。

大正11年8月

1(火)●産業界の横断的組織、日本経済連盟会、設立。
●名古屋市、名古屋電鉄を買収し営業開始。
●酷暑のため交通巡査が初めてヘルメット着用。

2(水)●陸軍の次年度予算確定、総額二億二三〇〇万円で、軍縮により三〇〇〇万円節約と新聞に。

3(木)●米WGY放送局、初の長時間メロドラマ放送。

4(金)●東京で腸チフスなど複数の伝染病が蔓延。

5(土)●マラソンの金栗・秋葉両選手、樺太(サハリン)―東京間走破めざし樺太発(26日、完走)。

6(日)●十数年ぶりの酷暑で欠勤者続出、と新聞に。

7(月)●逓信省、大規模無線通信網建設案を作成。

8(火)●ルイ・アームストロングがシカゴのキング・ジョー・オリバーのバンドに加わる。

9(水)●詩人で作家の木下杢太郎が医学博士号を取得。

10(木)●酷暑と伝染病で東京では派出看護婦が払底し、病院などに影響、と新聞に。

11(金)●ロンドン―マルセイユ間で定期旅客飛行開始。

12(土)●帝室博物館長に、死去した森鷗外の後任として三宅米吉東京高師校長が就任。

13(日)●群馬県で連日の雷雨、浸水家屋二〇〇〇戸。

14(月)●三菱商事、東京支店を廃止。

15(火)●ドイツ、期限の来た賠償金二〇〇万ポンドの支払不能を宣言、五〇万ポンドだけ支払う。

16(水)●山東省の三鉱山、日中合弁での経営を決定。

17(木)●国定教科書が来年から値下げされると新聞に。

18(金)●上越線清水トンネル工事、着工。

19(土)●日銀、在外正貨の正貨準備繰り入れを廃止。

20(日)●同愛会の勤労デーで有馬頼寧会長が草刈り。

21(月)●英総領事が参列し、生麦事件六〇年祭を挙行。

22(火)●ダブリンでアイルランド自由国のコリンズ臨時政府首班が暗殺される。

23(水)●複数の台風が、二七日にかけて中国地方から関東地方の広い地域を襲い、各地で被害甚大。

24(木)●市場協会、物価対策に露店利用を呼びかけ。

25(金)●簡易保険の保険金最高制限額を三五〇円に。

26(土)●カムチャツカ方面警備中の軍艦「新高」が暴風雨に遭遇し沈没、三二七人が殉職。

27(日)●横浜港で仏船の阿片密輸入を摘発。

28(月)●ニューヨークで初めてラジオの広告放送。

29(火)●東北帝大に法文学部新設決定。

30(水)●明治一八年完成の東京・千住大橋、架け替えが決まる。

31(木)●茨城県堅倉村民、収入役の使いこみに抗議し、村税不納を決議。

毎日新聞社

▲アンナ・パブロワ、日本公演(9月10日)東京・帝国劇場で得意のバレエ「瀕死の白鳥」を踊り、観衆を魅了。「不安な時代の美への憧憬」を完璧に表現したと言われる。写真は帝劇の楽屋で。

「写真通信」

◀広幅織物普及展(9月20日)東京・上野松坂屋で開催。衣服地、袴地、夜具・座布団地の広幅物が即売された。広幅織物は「生活改善」と産業振興をめざす農商務省が推奨、小幅物より着物で三割ほど割安という。

「写真通信」

▲日本労働組合総連合結成大会(9月30日)大阪に主要59組合代表が参集。堺利彦、山川均、大杉栄などの顔も見られたが、アナ・ボル派の対立と官憲の弾圧により流会。写真は演壇を占拠する警官。

◀ラジオ放送実験(9月7日)別室の送話器に吹きこんだ義太夫が、違う部屋で聞けた。米国では、すでに1920年放送開始。日本も3年後の大正14年に実用化。

「国際写真情報」/国際フォト　「写真通信」

▶第1回全日本庭球選手権大会開く(9月9日)東京帝大コートで熱戦を展開、男子シングルスでは福田雅之助が優勝した。3月に協会創立、日本テニス界の草創期だった。

◀ビアード博士歓迎会(9月16日)東京市長・後藤新平を会長とする東京市政調査会が招待。米国の都市計画専門家で、震災後は「帝都復興計画」に協力。右端から4人目。

大正11年9月

1(金)●ドイツの経済放送サービス社、世界初の有料商業ニュースを放送開始。
2(土)●目黒蒲田電鉄、設立。東京における田園都市開発が始まる。
3(日)●山梨県船津村で茸中毒、七人死亡。
4(月)●日ソ長春会議、開催(25日、決裂)。
5(火)●小学校長が児童の湯銭値下げを警視庁に陳情。
6(水)●福岡でコレラ流行、郡部にも広がる。
●強盗・脅迫で前科六犯の「ピス健」、逮捕。
7(木)●市来蔵相、実業界に金解禁の是非を諮問。
8(金)●東海道本線豊橋駅付近で、映画の真似をして線路上に寝た少年が列車止める。
9(土)●初のプロ野球団「日本運動協会」が早大と対戦。
10(日)●ロシアのアンナ・パブロワ・バレエ団、帝劇で「瀕死の白鳥」などを上演(~29日)。
11(月)●トルコ、ギリシャ軍に反撃し、スミルナを奪回(18日、ギリシャ軍は小アジアから撤退)。
12(火)●内務省社会事業調査会、中央市場設置要綱・公設市場開設要綱などを可決。
13(水)●リビアのアジジアで世界最高気温七二・八度。
14(木)●三省堂、『コンサイス英和辞典』刊行。
15(金)●ビルト独首相、「まずパン、賠償は二番目」と政府の基本方針を表明。
16(土)●市来蔵相、金解禁は時期尚早と声明。
17(日)●眼科の世界的権威、フックスが来日。
18(月)●文部省、女性教師・保母の産前産後の有給休暇を認めるよう訓令。
19(火)●米、史上最高の関税で国内産業の保護はかる。
20(水)●鉄道省、東海道線の電化を決定(12年着工)。
21(木)●小作制度調査総会、小作争議調停法案を決定。
22(金)●米でケーブル法成立、外国人と結婚した女性に米国籍を保障。女性の人権に新展開。
23(土)●英仏、イスタンブールのトルコ返還を決定。
24(日)●長野県下伊那自由青年連盟が発足。官製の青年団に対抗した自主活動の先駆となる。
25(月)●物価調査会の値下げ指導にようやく効果、味噌・醤油の業界などが値下げを公表。
26(火)●洋式旅館は快適で安上がり、和式旅館はチップなどが不明確で高くつく、と新聞に。
27(水)●東京で一三歳の小学生が成績不良を苦に自殺
28(木)●各地で小作料減額要求が相次ぐ。
29(金)●交通緩和のため東京に地下鉄を、と新聞に。
30(土)●日本労働組合総連合結成大会を大阪で開催。総同盟と組合同盟が対立し、流会。

▲富士の裾野で陸軍が攻防演習(10月11日)18日まで実施。第1次大戦の研究から、新戦術・新武器を駆使。14日には2ヵ所に据えた野砲から、実戦さながら、2キロ先の守備軍の機関銃陣地を猛撃した。

「国際写真情報」/国際フォト

ハルトン・ゲッティ/オリオン・プレス

▲ムッソリーニ、権力奪取(10月28日)ファシスタ党がムッソリーニ(右から二人目)に率いられてローマ進軍。ファクタ内閣は国王に戒厳令の裁可を求めたが拒否され、総辞職した。翌日、ムッソリーニは国王から組閣を命じられる。

和田康由提供

▲大阪近郊の箕面村で住宅改造博覧会開催(10月)日本建築協会が、アール・デコ調の家具にベッドといった洋風の中流住宅27戸を発表。会場はそのまま新しい郊外住宅地、桜ケ丘住宅地となった。

「写真通信」

◀孔子2400年祭開く(10月29日)「昌平坂学問所」として知られた東京・お茶の水の、孔子廟・湯島聖堂で挙行。祭主会長・徳川家達、朝鮮の儒者らが挨拶。宮内省雅楽部が演奏した。

「国際写真情報」/国際フォト　「太陽」

▶赤軍、ウラジオストク入城(10月25日)前日の日露軍事協定により、日本軍は全員撤兵。「尼港事件」など多くの犠牲をともなった、大正7年来のシベリア出兵が終幕。写真は赤軍入城を歓迎する市民。

◀コレラ、東京で猛威(10月)9月末に銚子の漁船から患者が発生し、魚を通じて全市に拡大。郵便局では郵便物を消毒(写真)、200万人が予防注射を受けた。下旬には下火になったが、70人が死亡。

大正11年10月

1(日)●総同盟、ILO否認と労農ロシア承認を決議。
2(月)●東京株式取引所、実物取引を開始。
3(火)●北海道名寄町の小作人六二人、現耕作者に対する土地分与を道庁に陳情(後、実現)。
4(水)●米プロ野球ワールドシリーズのヤンキース対ジャイアンツ戦を、初めてラジオが実況中継。
5(木)●東京・神奈川・千葉を中心にコレラ流行深刻化。警視庁は東京湾での漁業を禁止。
●ゾラの代表作『ナナ』、日本で一二〇版に。
6(金)●米ロックフェラー研究所の招待を受ける七人の医学博士を全国から選考。
7(土)●整理解雇される陸海軍職工の特別支給額発表。
8(日)●ウラジオストク派遣軍武器紛失(横流し)事件で軍法会議開廷。
9(月)●弘前高等学校の生徒、処分に抗議し同盟休校。
10(火)●英とイラクが協定、委任統治から同盟関係へ。
11(水)●連合軍とトルコ、ムダニヤ停戦条約を締結。トルコが領土を回復して反帝国主義戦争に幕。
12(木)●パン・うどん・卵の公正値段が発表される。
13(金)●日蓮に立正大師の諡号宣下。
14(土)●「監獄」を「刑務所」と改称。
15(日)●朝日新聞が第一回関東小学校蹴球大会を開催。
16(月)●イギリス、戦時債務の金利一億五〇〇〇万ドルをアメリカに支払う。
17(火)●婚礼衣装、和装で五〇〇〇円以上かかるものが、洋装なら一五〇円位ですむ、と新聞に。
18(水)●米の世界一周旅行団の一行が来日。
19(木)●英保守党、連立内閣への協力を撤回。ロイド・ジョージ内閣、総辞職。
20(金)●政府、普通選挙調査会を設置。
21(土)●関東のコレラが下火に。各駅の防疫隊が解散。
22(日)●日本軍のシベリア撤兵を前に、ロシア人避難民が続々と朝鮮の元山に逃れる。
23(月)●帝国農会、地租軽減を決議。
24(火)●伊のムッソリーニ、政権を奪取すると宣言。
25(水)●シベリア派遣日本軍、撤退完了。
26(木)●日本女子大で学校当局批判のビラがまかれる。
27(金)●南ローデシアで住民投票。英系住民はボーア人勢力を警戒して、南ア連邦との合併に反対。
28(土)●ファシスト義勇軍がローマに進撃、制圧。
29(日)●三越のエレベーター運転手四三人が待遇改善と昇給を要求してストライキ。
30(月)●南北アイルランドの代表、和平宣言に署名。
31(火)●イタリアでムッソリーニ内閣成立。

▲アインシュタイン来日（11月17日）ノーベル賞受賞が10日に決まり、神戸港と翌日の東京駅は大騒ぎになった。写真は帝国学士院主催の招待会。左が夫人。日本に「相対性理論」ブームを生んだ。

PPS

▲BBC、ラジオ放送開始（11月14日）ロンドンとマンチェスターの2局で、国際ニュースと天気予報を放送。写真は翌年、正装が義務づけられたアナウンサーにならい、正装でマイクに向かう役者。

「イリュストラシオン」

▶オスマン帝国滅亡（11月1日）トルコの祖国解放運動指導者、ケマル・パシャ（左）が、スルタン制を廃止、最後のスルタン、メフメット6世を亡命に追いこんだ。13世紀以来の大帝国がついに倒れ、共和国への道を歩み始めた。

▶新型機が快挙（11月）完成したばかりの中島B-6型複葉機が、東京―大阪間飛行競技会に特別参加、往復4時間49分の快記録を達成した。同機は、国産初の全金属骨組み採用で注目を集めていた。

毎日新聞社

「写真通信」

▶オートバイ大競走会、開催（11月15日）東京モーターサイクル協会が主催、東京・深川の洲崎埋め立て地飛行場はファンで大にぎわい。接触した1台が勢い余って観客席に飛びこみ、十数人の負傷者が出た。

◀日本積善銀行が破綻（11月29日）京都本・支店、大阪支店が休業を発表。同行の重役・高倉為三らに対する多額の貸出金が焦げついた。写真は12月の預金者払い戻し。大混雑となった。

「写真通信」

大正11年11月

1（水）●トルコのケマル・パシャがスルタン制廃止を宣言、オスマン帝国滅亡。
●旭川―稚内間が全通、鉄道が最北端へ到達。
2（木）●マルク安定めざし、ベルリン国際会議開催。
3（金）●米村嘉一郎、大日本赤化防止団を結成。
4（土）●米プロ選抜チームを迎えての日米野球第一戦、慶大は六対〇で破れる。
5（日）●コミンテルン、日本支部（日本共産党）を承認。
6（月）●日本南画院が旗揚げの展覧会。
7（火）●大学や高校の社会思想研究団体が、学生連合（FS）を結成。
8（水）●犬養毅・尾崎行雄らが革新倶楽部を結成。
9（木）●明治神宮外苑競技場の定礎祭を挙行。
10（金）●少年審判所設置の勅令、公布。
11（土）●ロシア、日本軍の北樺太残留に強硬抗議。
12（日）●全日本女子陸上競技選手権大会第一回大会、東京の陸軍戸山学校で開催。
13（月）●米最高裁、日本人の帰化権を否認。
14（火）●BBCが国際ニュースと天気予報放送開始。
15（水）●日本航空輸送研究所、大阪府の堺と四国の高松・徳島間で定期旅客輸送を開始。
●英総選挙、自由党が大幅に議席を失い、労働党が初めて野党第一党に。
16（木）●東京の富士紡績工場で腸チフス続出、予防注射を行い、蝿を四匹一銭で買い上げる。
17（金）●アインシュタイン来日、相対性理論ブームに。
18（土）●静岡―北海道間のミカン輸送で汽船三社の運賃値引き競争が激化、と新聞に。
19（日）●ロシア共和国が極東共和国を併合。
20（月）●中央線の吉祥寺―国分寺間、電化完成。
21（火）●レベッカ・ラチマー・フェルトンが女性として全米初の上院議員となる。
22（水）●国鉄は、毎年五〇〇人の死傷者を出す危険な連結器を総交換の予定、と新聞に。
23（木）●第一回早慶対抗ラグビー。慶大が快勝。
24（金）●香川県善通寺で泥酔の軍人が妻を斬殺し自殺。
25（土）●国王と議会がムッソリーニに独裁権を付与。
●坪内逍遥が指導する児童劇、第一回公演。
26（日）●新舞踊の会「踏影会」が市村座で第一回公演。
27（月）●家庭・学校で毛糸の手編みが流行、と新聞に。
28（火）●ニューヨーク上空で、飛行機がスモークで世界初の広告文字を描く。
29（水）●日本積善銀行が休業、各地に取り付けが波及。
30（木）●吉原遊廓で心中未遂、鋏で舌を切る。

「イリュストラシオン」

▲江連事件の「大輝丸」乗組員逮捕（12月13日）「尼港事件」に憤慨して樺太沖でロシア船を襲撃、ロシア人ら13人を惨殺した。主犯の江連（中央）は懲役12年、34人が処罰された。

毎日新聞社

◀ドイツマルク崩壊（12月）ベルサイユ条約の賠償に苦しむドイツでは、マルクが下落、インフレが急速に加速し、ついに1ドルが8000マルク以下にまで達した。写真は市場に出かける前にドルをマルクに替える主婦。

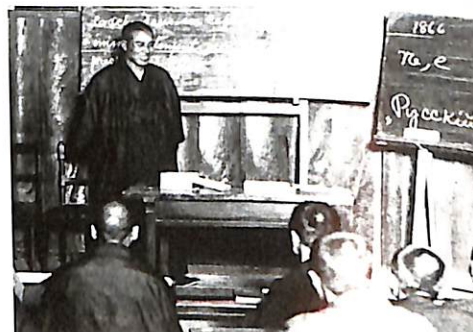
▶世界初の空母「鳳翔」竣工（12月27日）日本が、最初から空母として設計された初の軍艦を完成させた。1万トンたらずの小型艦だったが、エレベーター2基を備えた本格派だった。

呉市企画部海事博物館推進室提供

上田市立博物館提供

▼日本共産党、コミンテルン日本支部に（11月5日）ソ連で1ヵ月間にわたって開かれた、第4回コミンテルン世界大会で承認。前列中央が日本代表の片山潜、左端はホー・チ・ミン。

「写真通信」

◀出羽海、協会葬（12月25日）元横綱の常陸山。梅ケ谷と梅・常陸時代を築き、引退後は角界随一の大部屋を育てたが、6月に48歳で敗血症で死亡。おしまれた死だった。写真は弔辞を朗読する直弟子の横綱大錦。

▲高倉輝の「文学論」講義（12月）前年11月、長野県上田市に創設された上田自由大学で最も人気の高い講座だった。上田自由大学は、農村青年の学習の場として、大学レベルの知識を伝えることを目的に設立された。

大正11年12月

1（金）●埼玉県川越町、市制施行。
2（土）●イブン・サウド（サウジアラビア初代国王）、領域画定問題でイラクと協定締結。
3（日）●ニューオーリンズに日本領事館開設。
4（月）●神戸海洋気象台に初の無線電信装置を設置、気象実況および暴風雨警報の放送を開始。
5（火）●近畿から東北の広い範囲で季節はずれの暴風雪、船舶の遭難相次ぎ、積雪一㍍の記録も。
6（水）●アイルランド自由国、正式発足。
7（木）●日本・ポーランド、通商航海条約に調印。
8（金）●長崎県島原地方で地震、死者二六人。
9（土）●連合国、ドイツの賠償支払猶予要請を拒否。
10（日）●川崎造船所、飛行機部門を分離し本社直属に。
11（月）●東京・本郷の市営住宅募集、四〇戸に応募者三五〇〇人が殺到。
12（火）●ロシア反革命軍の指導者・セミョーノフが、エルデンの変名で門司港に着く。
13（水）●文部省、公民教育調査委員会を設置。
14（木）●朝日新聞、超高速輪転印刷機を導入。
15（金）●市来蔵相、全国の銀行に支払い準備充実を勧告、日銀は金融界への救済援助を声明。
16（土）●東京の四谷銀行が支払停止。
17（日）●青島の日本軍、撤退完了。
18（月）●退役軍人の生活が窮迫、と新聞に。
19（火）●東京府農林課は、水田一五万町歩を畑にして野菜の自給率を高める計画、と新聞に。
20（水）●閣議、張作霖の中央進出に反対の方針を決定。
21（木）●東京・神田で民衆議会（模擬議会）が大盛況。
22（金）●軍縮の影響で将校志願者が激減、と新聞に。
23（土）●婦人連盟理事会、姦通罪削除運動推進を決定。
24（日）●クリスマスを祝い、東京・日比谷公園で女性四〇〇人が大合唱、最後には「君が代」も。
25（月）●東京・渋谷の工場宿舎で少年五人が焼死。警視庁は工場法で禁じた少年雇用の実態に関心。
26（火）●陸軍自動車隊の車両九台が、雪上操縦演習のため仙台・盛岡方面に向け東京の本部を出発。
27（水）●空母として建造された世界初の軍艦「鳳翔」が横須賀海軍工廠で竣工。
28（木）●文部省、小学校教育費の整理・節約を訓令。
29（金）●枢密院、八日調印の日華郵便条約を対中国軟弱外交と批判、政府弾劾の上奏を決議。
30（土）●ソビエト社会主義共和国連邦、成立。
31（日）●石川島造船所、英・ウーズレー社製の自動車をノックダウン方式で試作。

我楽多市

流行語
好色代議士ここにあり！

「惚れ菌」。好色な代議士のこと。有名な博物学者の南方熊楠が資金集めのために、東京・銀座の交詢社で名士を相手に「女性が惚れる菌」について講演したところ、その菌を分けてくれるなら寄付するというものが続出、そのほとんどが代議士だったところから、こういう言葉が流行した。特に山本達雄農商務相は「処女が惚れる菌なら一万円出す」と申し出たというので、〝惚れ菌〟の代表と言われた。

「厠草履」。女学生の間の流行語で、下級生に対して自慢をする女性。厠草履はトイレの草履で、トイレでは人がいないため音も一段と響く。それと同じで知っている人のいないところで自慢するという意。

「プラチナ」。銀ブラのことを、女学生の間でこう言った。ネコもシャクシも「銀ブラ」という言葉を使うようになったので、「私たちはそれよりランクが上なのよ」という意味で使用、大流行した。

▲門司で開かれた日本髪のコンクール。明治の中期から流行した束髪は、大正に入ってもさかんで、さらに改良され、さまざまなスタイルが登場。

毎日新聞社

文化
名作のできるまで 漱石の「彼岸過迄」異聞

東京・神田の佐藤恒祐氏が、旧学位令による最後の医学博士号を授けられた。氏は故・夏目漱石と交わり深く「明暗」の小林医者のモデルであり、「彼岸過迄」も氏の医院を中心に描かれている。漱石との交遊について氏は語る。

「『彼岸過迄』が書かれたのは先生が肛門周囲炎でうちに入院した時のことです。先生が〝いつまでかかるだろうか〟と聞くので〝さあ、彼岸過ぎまではかかりましょう〟と答えたら、そのまま題名にされたのです」

（「東京日日新聞」三月二〇日）

CM100年

ポスター「いとう松坂屋呉服店」（現・松坂屋）

▲大正11年の広告ポスター。「美術の領域にまで昇華された」と評された作品。

◀「漫画の畑」四月号に掲載された小川治平画「平和記念東京博覧会開かれる」。この年、上野で開かれた平和復活記念の博覧会と、軍備拡大の動きとの矛盾を描いたもの。

日本漫画資料館提供

社会
子どもの酒はだめ！ 未成年者飲酒禁止法

四月一日から未成年者飲酒禁止法が実施され、これまでしばしば問題になった小学生などの酒盛りが禁止になった。明治三三年以来、二五回も議会に提案された法案が、ようやく陽の目を見たもので、罰則は飲んだものも飲ませたものも同罪で、科料一〇円に処せられる。

これで恐慌をきたしているのが京の舞妓で、彼女らは未成年だが、「まあ一杯」と客に勧められて飲んだら、客も舞妓も罰せられるといって、断われば角が立つと頭をかかえている。なお未成年者が結婚した時の三三九度の盃や、お祭りなどの時にふるまわれる神社のお神酒がどうなるか注目されていたが、当局はそれらは神事として認めることにした。

（「大阪朝日新聞」四月一日）

はやり歌

砂山

作詞 北原白秋
作曲 中山晋平

海は荒海
向こうは佐渡よ
すずめ啼け啼け　もう日はくれた
みんな呼べ呼べ　お星さま出たぞ

暮れりゃ砂山
潮鳴りばかり
すずめちりぢり　また風荒れる
みんなちりぢり　もう誰も見えぬ

かえろかえろよ
茱萸原わけて
すずめさよなら　さよならあした
海よさよなら　さよならあした

▶「小学女生」大正一一年九月号に掲載されたが、北原白秋（写真）と中山晋平という人気コンビの曲でもあり、たちまち流行することとなった。

籠の鳥

作詞 千野かほる
作曲 鳥取春陽

逢いたさ見たさに怖さを忘れ
暗い夜道をただひとり

逢いに来たのになぜ出て逢わぬ
ぼくの呼ぶ声忘れたか

あなたの呼ぶ声忘れはせぬが
出るに出られぬ籠の鳥

籠の鳥でも智恵ある鳥は
人目忍んで逢いに来る

人目忍べば世間の人は
怪しい女と指ささん

怪しい女と指さされても
誠心こめた仲じゃもの

指をさされちゃ困るよ私
だから私は籠の鳥

世間の人よ笑わば笑え
共に恋した仲じゃもの

◀天才的演歌師とされた鳥取春陽の代表作。小学校で歌うことが禁止されるほどの、人気だった。映画化も各社競作。写真は帝国キネマ作品で主演の沢蘭子。

マツダ映画社

三面記事
ハレンチ！　ドイツ留学生

敗戦国ドイツでは今、日本の一〇円金貨一枚で王侯のごとき贅沢ができるというので、商社員や留学生が続々とベルリンに集まっている。また文部省でも将来の大学教授候補者をドイツへ積極的に送りこんでいるが、このほどゾルフ駐日大使を通じて日本政府に「日本人留学生の風紀を取り締まってほしい」との申し入れがあった。

同大使の控え目な言い分によると、各国からの留学生のうち日本人の風紀紊乱は著しく、女性つきの下宿を要求したり、女性を連れこんでのハレンチなふるまいが目立つ。ベルリンにある最もいかがわしいカフェーも、今や日本人で占められているという。

（「日本及日本人」二月一一日号）

▲3月、京都ホテルで開かれた仮装舞踏会。鹿鳴館での舞踏会が最初だが、この頃もさかんだった。

毎日新聞社

刑務所
模範囚に歯磨き粉支給 当局のアメとムチ

この年一月二一日から監獄内の囚人に対する扱いが変更され、改悛の情ある囚人には歯磨き粉と楊枝を与え、赤い囚人服も浅黄色にして、ほかの囚人と区別することになった。

当局では先に、囚人の労働時間を延長して獄内の苦痛をより強く感じさせるようにしたが、これはその反面の優遇策としてとられたもので、これまで囚人の朝の歯磨きには塩と藁を使わせていたので、歯磨き粉と楊枝の支給は大いにありがたがられるはずだと言う。また浅黄色の着物は目立つため、それを着るものの励みになると期待されている。なお当局はすでに、模範囚には食事の量をふやすことも内定している。

（「大阪朝日新聞」一月二一日）

データ
日本の財産は八六〇億円 初の〝国富〟調査

日本の富はどれくらいあるか？先に国際連盟理事局から資料提供の依頼があり、政府は国勢院の手で調査して送還した。調査項目は土地、鉱山から海や川（これらも経済的に評価されている）、林産品、鉱産品、金銀貨幣、皇室財産など二四項目に分かれている。

それによると国富の総額は八六〇億七七〇七万円で、（第一次）大戦前、大正二年の三二〇億四三一三万円と比較すると五四〇億円以上の増加を示している。その最大は土地で三三〇億八五六六万円。以下、おもな項目と金額を列記する（一〇〇〇万円未満四捨五入）。建て物＝八五億六〇〇〇万円、鉱山＝六四億一〇〇〇万円、海・湖・川＝四六億円、金銀貨幣および地金＝一三億六〇〇〇万円。

従来は絶対秘密とされていた皇室財産も今回初めて公表され、総計で三億四五九四万円と判明した。そのほとんどは土地で三億七五[illegible]万円、この中には木曽などの御料林の立ち木も一本一本評価されている。

（「東京朝日新聞」一月二一日）

▲この頃、「かけっこ」が、子どもたちの間で大はやりだった。写真はこの年12月撮影。

毎日新聞社

▶一二月一日、森永製菓から発売されたポケット用シガレット・チョコレート。価格は一五銭だった。

森永製菓提供

この年の初もの
女性飛行士の第一号 兵頭精さん（二三）

●**フィギュア・スケート**　二月に長野県諏訪湖で初公開。

●**ラジオのCM**　ニューヨーク放送局が実施。最初のスポンサーは不動産会社だった。

●**航空母艦**　世界最初の空母「鳳翔」が一二月、横須賀海軍工廠で完成。九四九四トン、二一機搭載。

●**ロボット**　ニューヨークで上演された演劇で、人造人間のことが初めて「ロボット」と呼ばれた。

●**LPレコード**　イギリスの前下院議員、ヘンダーソン・ビリンクが二年がかりで完成。

世界の動き

日本のシベリア出兵を契機に成立 わずか二年でついえた〝民主国家〟の夢 「極東共和国」消滅！

日本軍のシベリア出兵が終わりを告げた一九二二年、日本とロシアの〝緩衝国家〟だった極東共和国は、その使命をまっとうしたかのように消滅した。結局は〝国際政治の綾〟が生んだわずか二年の短い命だったが、民主主義国家の創設にかけた理想家、クラスノシチョーコフの夢は、ここにはかなくついえたのだった。

▲極東共和国政府がおかれた建物。当時のチタの、メイン・ストリートの四つ角にあったホテルが使用された。 上田秀明提供

ソビエト・ロシア側の対日戦略が生んだ国

「ウラー、ウラー！」

一九二二年一〇月二五日午後二時すぎ、極東共和国人民革命軍がウラジオストクのキタイスカヤ通りに姿を現すと、詰めかけた群衆から熱狂的な叫び声が上がった。偵察隊に続き、二門の山砲、騎馬隊を含む二個連隊が粛々と進む。赤いリボンをつけた若い女性たちが駆け寄り、花束を贈る。笑顔でこたえる兵士たち――それは、あたかも祭日のような光景だった。

つい数十分前まで、シベリアから撤退する最後の日本軍を送る日の丸の小旗がはためいていたのとは、対照的な光景だった。日本軍のシベリア出兵から約五年、この日、ウラジオストクの街は、バイカル湖東岸から日本海までの東シベリアを版図とする本来の〝主権者〟、極東共和国の手にかえったのである。

しかしその極東共和国も、わずか一カ月後には地上から消え去ることになる。極東共和国人民代議委員会は、この年一一月一四日、ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国との合併を決議、一六日には併合された。一九二〇年一一月一〇日の正式樹立から、わずか二年という短い命だった。

実は、この運命は極東共和国の設立当初から定まっていたのである。一九一八年から、シベリアにはロシア革命に干渉する目的で上陸した日本軍、アメリカ軍が駐留していた。特に、西の国境では、ポーランドとの戦争を継続しているソビエト政権にとって、七万二〇〇〇人の日本軍は脅威だった。こうした状況下で設立された極東共和国は、「ソビエト・ロシアの対日戦略の産物だった」と語るのは国際大学研究所特別顧問の細谷千博氏である。

「極東共和国は日本軍との直接衝突を避けるための〝緩衝国家〟として作られた、いわば〝桃色の国家〟だったのです。表向き民主主義的な政体をとった背景にも、シベリアの利権をめぐって日本と対立するアメリカによる日本軍撤兵に対する圧力を期待し、また『共産主義に敗れたのではない』とすることで、日本軍の面子を保って撤退を促進させるというねらいがありました」

一九二〇年七月一五日、極東共和国と日本軍との間にゴンゴッタ協定（停戦議定書）が調印され、その緩衝国としての機能は発揮される。その後、二一年八月に始まった大連会議、二二年九月からの長春会議と、日本軍撤退・通商関係樹立・国交関係樹立を模索して日本との協議が続いた。しかしソビエト・ロシアが国際的に認知されると、〝緩衝国家〟としての存在意義は薄れていく。ただ一国、シベリア出兵を続けていた日本も、国際的非難の高まりの中で、一九二二年六月二三日の閣議で撤兵を決定する。こうした国際情勢の変化の中で、極東共和国はその使命を終えたのだった。

米国亡命から生まれたクラスノシチョーコフの夢

極東共和国は、まぎれもなく緩衝国家だった。しかし、前出の細谷氏は「緩衝国家という目的とともに、帝政時代からのシベリア自治運動の流れに位置づけられる側面もある」と語る。

実際、緩衝国家の構想を打ち出したのは、レーニンらボルシェビキ（社会民主労働者党多数派）が率いるソビエト・ロシア政権ではない。反ボルシェビキの諸勢力が、シベリア自治政府の樹立を前提に結成したイルクーツクの政治センターだった。バイカル湖西岸のイルクーツクで反革命派のコルチャック政権を打倒した政治センターは、コルチャック軍を追って進出してきた赤軍第五軍と交渉を行ったが、ここで初めて「自治政権を緩衝国家とする」という案が、政治センター側から出されたのであった。この提案にソビエト政権が合意する形で、緩

▶極東共和国「政府」の議長についたクラスノシチョーコフと家族。彼は後に失脚、1937年11月、銃殺される。 上田秀明提供

◀行政機関としての閣僚会議議長をつとめたニキフォロフ。後にクラスノシチョーコフと決別、モスクワの中枢に入る。 上田秀明提供

極東共和国

ニコラエフスク・ナ・アムーレ
オホーツク海
サハリン州
ソ連
プリアムール州
極東共和国
アムール州
ヴェルフネ・ウヂンスク（ウラン・ウデ）
ザバイカル州
ハバロフスク
チタ
バイカル湖
ブリヤート自治州
ブラゴヴェシチェンスク
沿海州
イルクーツク
ハルビン
ウラジオストク
モンゴル
中国
日本海
モンゴル高原
朝鮮半島
日本
黄海
ゴビ砂漠

▶この年九月に行われた長春会議の極東共和国側代表団。日ソ国交樹立のための会議だったが決裂。前列右がソビエト代表のヨッフェ。 写真通信

“過激思想保持者”とされたエロシェンコの「日本追放記」

——佐伯 修

「日本追放の命令をうけ、大勢の警官にとりかこまれて鳳山丸というウラジオストックゆきの汽船にのせられた私に最後のわかれをつげにきてくれたひとは、朝日新聞の記者と、敦賀警察でロシア語の通訳をしている商業学校の先生の二人だけでした。二人とも私に同情して、私からはなれずに、そばにいてくれました。そして私がなにか言うと、二人は心配そうに、『気をつけなさい。いかんです。警官がきいている』と注意してくれました。それで、私も黙りこみました。私が黙りこんでも、二人は私のかぎりない悲しみ、言葉では言いつくせないさびしさをわかってくれたことでしょう」

ロシア国籍のエスペランチストで童話作家のワシリー・エロシェンコ（一八九〇～一九五二）は、前年の大正一〇年五月二八日夜、滞在先の新宿・中村屋の離れから警察に連行され、六月四日、福井県敦賀港から強制的に国外退去させられた。彼が「過激思想保持者」で「本邦安寧秩序ヲ害スル虞アリ」という当局の言い分だった。

一方、エロシェンコ自身は、この年、雑誌「改造」九月号に掲載された「日本追放記」の中で、強制退去による出港時の心境を冒頭のように語り、「東京の友だち」たちに対する名残おしさを繰り返したうえ、

「だんだん遠のいていく日本に、私の魂だけがとりのこされたように思いました」と切なさを綴っている。ウラジオストクで下船する時、護送役の日本の警官は、思いがけず彼に握手を求めてきた。

「警官は、私の手をつよく握りました。彼の二つの手をもって、私はなつかしい日本に最後の握手をしました。そして、警官の手で外国の友だちの手を握るのが、いまの日本の習慣なのではあるまいかと、さびしく思いました」（高杉一郎訳）

ウクライナのクルスクに生まれたエロシェンコは、四歳で失明、大正三年、鍼灸医療を学ぶべく初来日、エスペラント語の普及活動にも活躍し、たちまち修得した日本語でも、童話などを書いた。同八年再来日。秋田雨雀、竹久夢二、神近市子、大杉栄らと交遊。当局の追放処分は、むしろ世間の同情論を誘った。また、中村屋の相馬愛蔵、黒光夫妻は、深夜の強引な捜査について警察を告訴、淀橋署の署長を辞職に追いこんだ。

日本追放後、エロシェンコは白軍支配地区のウラジオストクから赤軍支配地区に入ろうとしてはたせず、一時中国に滞在、魯迅、周作人らと親交し、大正一二年、念願のソ連入りを実現している。

中村屋提供

▲中村彝・鶴田吾郎競作の肖像画も有名。

衛国家＝極東共和国設立の動きが始まったのである。

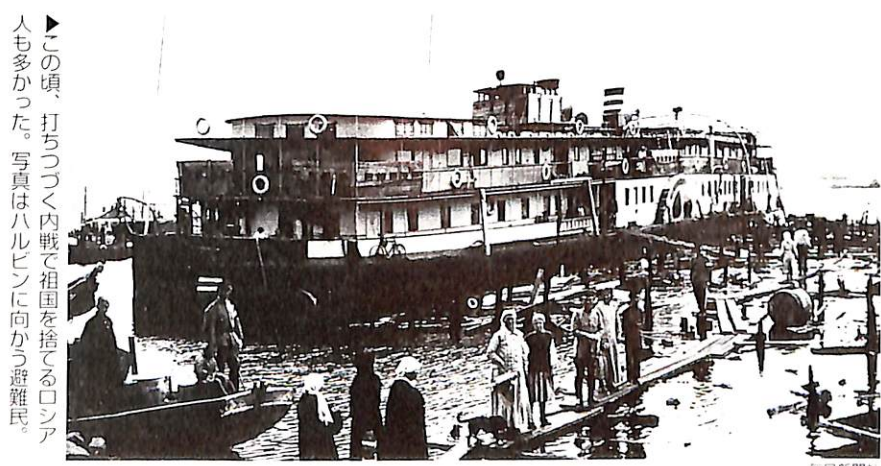
そして一九二〇年四月六日には、バイカル湖の東に位置するヴェルフネ・ウヂンスクで極東共和国の樹立が宣言される。首都はチタにおかれた。クラスノシチョーコフ（当時・二九歳）を政府議長とし、「諸社会勢力の平和的な発展を基礎とする民主主義的自由を社会のすべてに保障する」民主主義的権力の確立がめざされたのであった。

この政体には、たしかにソビエト側の戦略的意図もあった。しかし、クラスノシチョーコフの生涯を追っているジャーナリストの堀江則雄氏は、「私は、彼が国際政治の状況とシベリア自治運動の流れの上にのって、自分の夢を実現しようとしたのだと考えています」と語る。

クラスノシチョーコフは、帝政ロシア時代から革命運動に身を投じていたが、一九〇二年にアメリカへ亡命。労働運動に加わるかたわら、シカゴ大学で法律を学び、弁護士として活動していた。彼はその過程で独自の理念を持つようになっていたのだ。

「彼は広大なシベリアでの共産主義実現には懐疑的で、市場経済のもとに産業を発達させることを優先させようとしていた。モスクワの思惑とは別に、亡命中に体感したアメリカ民主主義とロシアの共産主義の理想的な部分を結合させた国造りを考えていたのです」（堀江氏）

しかし極東共和国が消滅した時、そこにクラスノシチョーコフの姿はなかった。日本軍の脅威が次第に薄れ、ソビエト化の促進を望むニキフォロフらが極東共和国の実権を握る中で孤立したクラスノシチョーコフは、一九二一年七月一五日にモスクワに召還されていたのだ。

その後、クラスノシチョーコフはプロンバンク（産業銀行）の理事長として、市場原理を導入したネップ経済体制の先頭に立って活躍したが、汚職の嫌疑をかけられて逮捕、投獄される。出獄後、連邦農業人民委員部の新繊維作物総局長に就任するが、スターリンの粛清の嵐のただ中で、一九三七年一一月二六日、銃殺されたのだった。

A・クラスノシチョーコフ（1880～1937）
一八九六年革命運動に入る。一九〇二年アメリカに渡り、一七年帰国。二〇年極東共和国の議長に就任するが、まもなくモスクワに召還される。

毎日新聞社

▶この頃、打ちつづく内戦で祖国を捨てるロシア人も多かった。写真はハルビンに向かう避難民。

往きて還らぬ

▲1月10日　大隈重信(83)
明治～大正期の政治家。東京専門学校（現・早稲田大学）を創設。明治31年初の政党内閣を組織するが、4ヵ月で辞職。

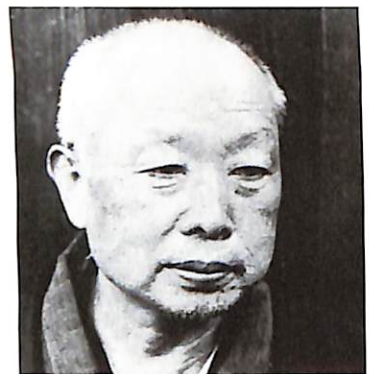
▲2月1日　山県有朋(83)
明治～大正期の軍人、政治家。地方自治制度を確立。明治22年、31年の2度組閣。引退後は元老として君臨。

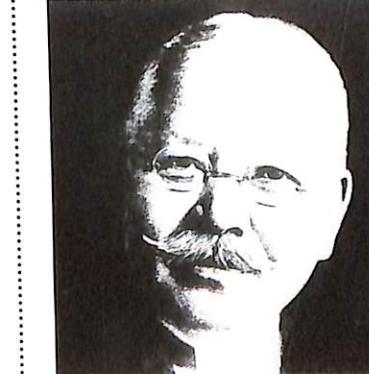
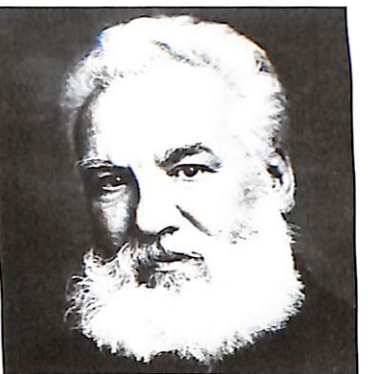
▲2月8日　4代目橘家圓蔵(58)
落語家。明治23年、圓蔵を襲名。「弥次郎」「首提灯」を得意とし、芥川龍之介が「圓蔵は全身舌だ」と評した。

みすず書房提供

▲4月2日　H・ロールシャッハ(37)
スイスの精神病学者。性格の分類に用いられる「インク・ブロット法（ロールシャッハ検査）」を考案した。

▲5月16日　和井内貞行(64)
養魚事業家。明治期私財を投じて十和田湖で養魚に成功、「和井内鱒」と呼ばれる。これを機に各地に養殖が起こる。

▲6月19日　常陸山谷右衛門(48)
力士。明治36年横綱。梅ケ谷と梅・常陸時代を築き、大正3年引退。出羽海を襲名、角界一の大部屋に育てた。

▲6月20日　饗庭篁村(66)
小説家。明治19年「当世商人気質」を新聞に連載、好評を博す。後年劇評で評判を高めた。ほかに『むら竹』（全20巻）。

▲7月9日　森鷗外(60)
小説家、軍医。明治の文豪。『阿部一族』『高瀬舟』など数々の名作を残す。訳本『即興詩人』は名訳と言われた。

▲7月22日　高峰譲吉(67)
日本の近代的化学者の草分け。明治23年清酒の醸造法を考案。明治27年強力消化剤のタカジアスターゼを創製。

▲8月2日　A・G・ベル(75)
米の発明家。1876年磁石式電話を発明、翌年ベル電話会社創設。ボルタ研究所を設立、聾唖者の発声なども研究。

▲10月15日　大井憲太郎(79)
明治期の政治家。自由民権運動のリーダー。労働・小作問題にも関係し、社会運動の先駆的役割をはたした。

▲11月18日　M・プルースト(51)
仏の小説家。大作『失われた時を求めて』（1913～1927年）で知られる。全7巻のうち、第5巻以降は死後の出版。

▲12月6日　宮崎滔天(51)
中国革命の援助者。明治38年来日中の孫文と中国同盟会結成。一貫して革命支援を行った。自伝『三十三年之夢』。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第64号 5月26日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1924［大正13年］

●特集
「宮中某重大事件」などを乗り越え 皇太子裕仁親王、良子女王ご成婚！／自費出版で一〇〇〇部刊行の詩集 宮澤賢治デビュー作『春と修羅』の評判／日本人は米国に同化できないと「排日移民法」が成立！／中国国民党第一回全国大会が開催 「国父」孫文、最晩年の輝き！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する366日…二重橋事件起こる（1月5日）／(財)同潤会設立（5月23日）／「護憲三派内閣」成立（6月11日）／甲子園球場完成（8月1日）／福田大将狙撃事件起こる（9月1日）／孫文、北伐開始を宣言（9月18日）／ヒトラー、恩赦で出獄（12月20日）／東京・青山脳病院が全焼（12月29日）

●人物クローズアップ
宮武外骨、「明治文化研究会」設立！

●決定的瞬間
レーニンの死と一通の「手紙」

●美の出会い
土方与志らの築地小劇場開幕

●女たちの肖像…宮本百合子『伸子』／勝者・敗者…内藤克俊、パリ五輪唯一のメダル！／証言・あの日この日…南原繁、岸田劉生／「現場」を歩く…山崎に本邦初のウイスキー蒸溜所／20世紀博物館…花王《清潔と生活》小博物館（東京）／外から見たNIPPON…魯迅と厨川白村

●ベストセラー…野上弥生子『海神丸其他』／スターと名場面…サワショー「国定忠治」／モノ語り'24…モボ・モガが愛好した「コンビ靴」、「バウムクーヘン」

■既刊好評発売中（既刊63冊！ 1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九三〇年代
第43号1931［昭和6年］ 第44号1932［昭和7年］ 第45号1933［昭和8年］ 第46号1934［昭和9年］ 第47号1935［昭和10年］ 第48号1936［昭和11年］ 第49号1937［昭和12年］ 第50号1938［昭和13年］ 第51号1939［昭和14年］ 第52号1940［昭和15年］

一九四〇年代
第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第3号1945［昭和20年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］

一九五〇年代
第36号1951［昭和26年］ 第37号1952［昭和27年］ 第38号1953［昭和28年］ 第39号1954［昭和29年］ 第40号1955［昭和30年］ 第41号1956［昭和31年］ 第42号1957［昭和32年］ 第6号1958［昭和33年］ 創刊号1959［昭和34年］ 第11号1960［昭和35年］

一九六〇年代
第12号1961［昭和36年］ 第13号1962［昭和37年］ 第5号1963［昭和38年］ 第2号1964［昭和39年］ 第14号1965［昭和40年］ 第15号1966［昭和41年］ 第16号1967［昭和42年］ 第17号1968［昭和43年］ 第18号1969［昭和44年］ 第4号1970［昭和45年］

一九八〇年代
第58号1986［昭和61年］ 第59号1987［昭和62年］ 第60号1988［昭和63年］ 第61号1990［平成2年］

最新刊（一九二〇年代）
第62号1921［大正10年］

■今後の刊行予定

▶第65号1925［大正14年］6月2日発売
ラジオ放送、始まる！●「治安維持法」制定●「東京六大学野球リーグ」戦スタート●「ライカ」誕生

▶第66号1926［昭和元年］6月9日発売
大正天皇崩御と〝元号誤報〟騒動●「同潤会アパート」出現●「福岡連隊事件」●R・ヴァレンチノ急逝！

▶第67号1927［昭和2年］6月16日発売
蔵相のひとことで〝失言恐慌！〟●芥川龍之介、自殺●「北京原人」、出土！●「英雄」リンドバーグ

▶第68号1928［昭和3年］6月23日発売
日本、五輪初の金メダル！●「満州某重大事件」●昭和の「即位大礼」●「ミッキーマウス」デビュー

▶第69号1929［昭和4年］6月30日発売
「東京行進曲」大ヒット！●昭和4年夏〝疑獄の季節〟●〝昭和の軍閥〟「一夕会」●米国「暗黒の木曜日」

▶第70号1930［昭和5年］7月7日発売
浜口首相狙撃と大失業時代●台湾「霧社事件」●夢の超特急「つばめ」●ガンジー、「塩の行進」開始！

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先　講談社読者サービス係　電話03-5395-3676

ミニ事典

1922年のキーワード

GPU（ゲーペーウー）
国家政治保安部の略称。ロシア・ソ連の秘密政治警察。チェカー（全ロシア非常委員会）を廃し、二月八日、ロシア共和国内務人民委員部内におかれた。長官はチェカーに引き続き、ジェルジンスキーが就任。反革命に血みどろの弾圧を加えたほか、国民の抑圧に力をふるった。ソ連邦結成後はソ連人民委員会議に直属、各共和国のゲーペーウー代表者が構成員となった。

帷幄上奏
陸海軍大臣、参謀総長などの軍人が、内閣を経ずに直接天皇に意見を述べること。帷は戦陣の垂れ幕、幄は引き幕を意味し、帷幄とは作戦計画を立てる司令部のこと。明治四〇年制度化。濫用が政党政治との対立を生み、国政上大きな問題となった。吉野作造は議会主義の立場から「東京朝日新聞」紙上で二月一三日以降、帷幄上奏は憲法解釈を超えているとして廃止論を展開、世論を喚起した。

常設国際司法裁判所
国際連盟規約に基づいて国際紛争の調停にあたる機関。二月一五日、オランダのハーグに事務局をおいて発足。一八九八年にロシア皇帝・ニコライ二世の提唱で開設された常設仲裁裁判所の役割を引き継ぎ、その不備を補った。後の国際連合の主要機関、国際司法裁判所の前身。

日本農民組合
略称、日農。第一次大戦後各地に生まれた小作人組合を母体として四月九日に賀川豊彦、杉山元治郎、山上武雄らによって結成された、初めての農民組合全国組織。小作料軽減、小作人の地位向上などを掲げ、岡山県藤田村や新潟県木崎村などの小作人争議を指導、組織を急速に拡大した。後に右派と左派の対立が激化、昭和二年までに三派に分裂した。

文化住宅
この頃の外国文化摂取ムードを反映して、大都市郊外に建てられた中流階級の洋風住宅。三月一〇日に東京・上野公園で開催された平和記念東京博覧会に登場して人気を集めた「文化村」のモデルハウスが典型。赤い屋根を象徴とする外観、中廊下、個室・居間のある椅子式生活など、生活の洋風化にこたえた和洋折衷の住空間を特徴とした。

▲「平和記念東京博覧会」の文化村に出品された文化住宅。小沢慎太郎設計。

直隷派・奉天派
中華民国初代大総統になった袁世凱の後継をねらう、北洋軍閥の二派。覇権をめぐって対立し、張作霖の奉天派は段祺瑞の安徽派と結んで日本の援助を受け、馮国璋・呉佩孚ら直隷派は英米の援助を受けた。四月二六日、両派は第一次奉直戦争を起こし、この時は直隷派が勝ったが、一九二四年に起こった第二次奉直戦争で奉天派・安徽派が勝利をおさめ、連合政府が樹立された。

東三省
中国で清代から中華民国初期時代の遼寧・吉林・黒竜江三省からなる中国北東部の呼び名。今日のほぼ中国東北部。軍閥・奉天派の巨頭、張作霖が五月一二日に独立を宣言、一九二八年までその支配下にあったが、この地域の利権をねらう日本が暗躍、張作霖爆殺事件を経て一九三一年、日本はこの地域全域を植民地化し傀儡政権による「満州国」を建てた。

▲張作霖。貧農の家に生まれ、一代で奉天軍閥を築いた。

東京市政調査会
急激に都市化が進む東京の市政および都市政策を科学的に調査研究するため、六月二六日に発足した機関。東京市長・後藤新平が呼びかけ、実業家・安田善次郎が基金を拠出した。組織と調査方法については、米都市計画研究家、チャールズ・A・ビアードに意見を仰いだ。翌年五月に月刊雑誌「都市問題」を創刊。現在も日比谷公園内の市政会館内で活動。

日本経済連盟会
財閥資本を中心に、資本家によって組織された団体。日本銀行総裁・井上準之助、三井合名理事長・団琢磨らが発起、八月一日に結成された。略称、経済連盟。団体・法人・個人会員からなり、三井・三菱・住友・安田の四大財閥をはじめ、資本金五〇〇万円以上の大資本がほとんど加盟。独占資本の意思決定機関として重要な役割を担った。今日の経済団体連合会（経団連）の前身。

日本運動協会
日本初のプロ野球チーム。米国のプロ野球に接して職業野球の必要に目覚めた飛田穂洲らが二年前に設立、後に巨人入りする山本栄一郎を主将に一五歳から二八歳の選手で組織された。九月九・一〇日、本拠地球場と定めた東京・芝浦球場で早大と対戦、一対〇、四対〇で敗れるが、画期的な試合を行った。しかし職業野球の時代はまだ遠く、昭和四年解散した。

▲日本運動協会チーム。野球をフルタイムでできるプレーヤーは、まだ少なかった。大正12年撮影。

革新倶楽部
犬養毅・尾崎行雄らが中心になって一一月八日に四五人で結成した政党。自由主義的な立場から、政界の現状打破、党弊刷新を掲げた。また、議会内の最左翼に位置し、民本主義など大正デモクラシーの風潮を国政に反映する役割をはたしたが、主張にまとまりを欠き、一四年に解体、党員の大部分が政友会に吸収された。

アイルランド自由国
信仰の自由と自治を求めて、一八世紀初頭から独立を求めてきたアイルランド島住民がイギリスと合意、一二月六日に憲法が発効して成立した英自治領。イギリスとの合同を望む北部六州をのぞく二六州に自治権を与えるという譲歩案が通ったため、泥沼化していた紛争に一応の終止符が打たれた。一九四九年、アイルランド共和国として完全独立。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1922

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋茂村巨利＋渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シト・プロ (有)マックス (有)マライカ 飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊池美優貴 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石井美雄 上田秀明 奥村健太郎 ハルトン・ゲッティ 武井一春 本多トミ子 横堀洋一 和田康由 アメリカンフォト・ライブラリー ARCHIVE PHOTOS 「イリュストラシオン」 オリオン・プレス 解放出版社 国際フォト 木挽社 CORBIS BETTMANN デジタルハウス PPS 毎日新聞社 マツダ映画社 みすず書房 ユニフォトプレス サントリー 帝国ホテル 東京急行電鉄 中村屋 森永製菓 アシュモリアン博物館 上田市立博物館 大宅壮一文庫 呉市企画部海事博物館推進室 国立国会図書館 三康図書館 逓信総合博物館 日仏会館図書室 日本近代文学館 日本漫画資料館

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1922
●ツタンカーメンの墓発見!
6月2日号
第2巻第20号 通巻63号
編集人 近藤達士 発行所 株式会社講談社 郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円

雑誌 23711-6/2
Ⓛ-2001/1/1
T1123711060565

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社